

愛知県劇場調査中間報告書

中京大学文化科学研究所 演劇研究グループ
井関 隆（代表）安藤 隆之 玉崎 紀子
（名古屋近郊都市劇場調査スタッフ）

（目 次）

はじめに

第一章 調査劇場リスト

第二章 調査項目の概要

第三章 調査データ

第四章 調査概要とコメント

エピローグ

はじめに

私たちの研究グループは、1987年度から名古屋地域の演劇運動の実態調査を開始した。調査は数年の計画で（１）演劇空間としての劇場の調査、（２）劇団調査、（３）東西の演劇の中の名古屋演劇の位置づけという順に進める予定であった。

しかし（１）（２）の調査を名古屋市について進めるうち、計画は幾度か修正された。第一に演劇を広くパフォーミング・アーツとして理解し、いわゆる新劇や歌舞伎・能狂言に留まらず、洋楽、邦楽、舞踊、舞踏、ダンス、オペラ、ミュージカルも視野に入れることにした。私たちは「演劇」を、演じる者と観るものが同じ空間と時間を共有する表現芸術と捉えたわけである。第二に、調査対象地域を名古屋市から周辺へと広げた。名古屋市にある劇団や楽団の活動範囲、逆に市外、県外の劇団や楽団のそれ、市内外の聴衆などの動向などを考慮に入れると、名古屋市に限定出来ないことを知ったからである。また広く名古屋圏のパフォーミング・アーツということになれば、当然それ以外の文化圏との接点はどこかを知りたくなる。こうして私たちは（１）の劇場の調査を拡大し、名古屋をとりまく諸都市へと足を運んだ。最初に岐阜県の岐阜市や東濃地区。静岡県浜松や掛川。三重県の桑名から伊勢方面。その結果は（Ａ）「名古屋市劇場調査中間報告書」（Ｂ）「三重県劇場調査報告書」という形で研究所の紀要に発表された。

今回の調査は、当初計画の調査（１）の（Ａ）（Ｂ）の後を受けて行なった名古屋市をとりまく名古屋圏の近郊諸都市の劇場の調査報告である。時間と人手と予算の関係から 10 市、2 町を選び、第 1 章冒頭に掲げたような劇場の抽出調査になった。

第一章 調査対象劇場

第1節 調査劇場一覧

001	愛知県津島勤労福祉会館	中小2	p. 8
002	佐屋町中央公民館		p. 10
003	一宮市民会館		p. 12
004	愛知県一宮勤労福祉会館		p. 16
005	江南市民文化会館	大小2	p. 18
006	扶桑町中央公民館		p. 22
007	犬山市民文化会館	大	p. 27
008	春日井市民会館		p. 31
009	春日井市東部市民センター		p. 34
010	瀬戸市民会館		p. 38
011	瀬戸市文化センター文化ホール		p. 40
012	豊田市民文化会館	大小2	p. 44
補遺1	豊田市中央公民館		p. 49
補遺2 & 3	愛知県豊田勤労福祉会館・豊田市産業文化センター		p. 49
013	刈谷市民会館		p. 50
014	愛知県刈谷勤労福祉会館		p. 54
015	岡崎市民会館	大小2	p. 55
016	岡崎市せきれいホール		p. 59
017	岡崎市竜美丘会館		p. 61
018	愛知県岡崎勤労福祉会館		p. 62
019	半田市福祉文化会館		p. 64
020	愛知県半田勤労福祉会館		p. 67

(なお記載順は名古屋市を中心にして津島・佐屋地区から時計回りである。)

第2節 劇場ホール抽出の根拠について

a) 名古屋圏と近郊都市について

抽出に際し、まず名古屋圏をどう捉えるかは<1>青野寿男・尾留川正平責任編集『日本地誌12、愛知県、岐阜県』、1969、二宮書店による商圈による分類、<2>中田実・谷口茂編著『名古屋第2の世紀への出発』1990年、東信堂による定義<3>運輸省が1985年に実施した<大都市交通セン

サス>で用いた中京圏の分類を参考にした。

<1>において伊藤郷平氏は「名古屋大都市圏として名古屋市への通勤依存率と買い回り品購買依存率が5%以上」で「その範囲は金山橋駅中心40kmである」としている。氏は両依存率5%未満、40kmを超える東三河を氏の「名古屋大都市圏」に含めていない。(p. 2-3) 30kmとすると、依存率10%以上の地域となる。

<2>では名古屋都市圏を通勤・通学圏(名古屋市への流出3%以上)と人口密度(1000人/平方キロ以上)を基準としてほぼ30km圏とする。(p. 59)

<3>の交通調査では通勤・通学交通量を見る性格上、「生活課題等が共通する地域としての広域市町村圏等の圏域設定を参考にしながら、人口規模、流動実態、地図表示の見易さを考慮して」下記の14地域ブロックを設定している。併せて鉄道・バス・路面電車を定期券で利用している通勤・通学者数を掲げる。(『昭和60年 大都市交通センサス 中京圏 総集編』中の表より作成)

この3つを総合し、名古屋市を中心に約30km以内、<3>で言う通勤時間74分以内に本調査での名古屋圏の範囲を定めた。そして商圈、人口、名古屋市への通勤・通学者数などから10市と津島市の調査に関連して追加した佐屋町、興味ある自主事業で知られる扶桑町を選んだ。選択した都市には下線を施した。

名古屋市を中心としたブロック間交通量

ブロック名	名古屋市を着地とする 交通量(人/日・片道)
1 名古屋市	321.284 ^人
2 海部津島(津島市、七宝町、 <u>佐屋町</u> 他10町)	34.438
3 尾張中部(西枇杷島町他6町)	20.050
4 尾張西部(<u>一宮市</u> 、尾西市、稲沢市他3町)	36.163
5 尾張北部(<u>春日井市</u> 、 <u>犬山市</u> 、 <u>江南市</u> 、小牧市、岩倉市、丹羽郡大口町、 <u>扶桑町</u>)	64.547
6 尾張北東部(<u>瀬戸市</u> 、尾張旭市、長久手町)	24.152
7 尾張南東部(豊明市、東郷町、日進町)	16.701
8 知 多(<u>半田市</u> 、常滑市、東海市、大府市、知多市)	36.458
9 豊田加茂(<u>豊田市</u> 、三好町、藤岡町、小原村、足助町)	9.539
10 衣浦東部(碧南市、 <u>刈谷市</u> 、安城市、知立市、高浜市)	13.724
11 岡崎額田(<u>岡崎市</u> 、幸田町)	9.356
12 西尾幡豆(西尾市、一色町、吉良町、幡豆町)	2.617
13 宝 飯(豊川市、蒲郡市、音羽町、他3町)	2.578
14 豊橋市	4.921
愛知県計	596.526

このように、名古屋市郊外から同市へ流入する通勤・通学者は35万人/日・片道(全体の流動の

33.8%) となっている。ブロック別では流入の多い順に尾張北部 (6.5 万人)、知多 (3.6 万人)、尾張西部 (3.6 万人)、海部津島 (3.4 万人) である。

今回調査の対象とした都市の概略を述べる。津島市は、江戸時代の宿場町で熱田と海路で結ばれた港であった。津島神社や、酒造業など古い伝統が残る一方、江戸時代の綿織物を経て、現在は毛織物が盛んである。また佐屋町と共に名古屋市ベッドタウンである。一宮市は、江戸時代には真清田神社 (尾張国府の一宮でもあった) の門前に成立した市に由来する商業の町であったが、市で扱われた糸、綿、織物の取引が多く、問屋制が発達した。明治末期からは毛織物が始まり周辺の尾西市、江南市などを含めた毛織物生産、集散の中心地である。名古屋市への交通の便がよく、一大ベッドタウンでもある。上の表と参考資料 no. 1 によれば人口は 1950 年から 1970 年にかけ 3 倍の 22 万人へ、1990 年で約 26 万人になっている。江南市は養蚕から各種織物を経て現在はスフ・合成繊維で全国有数の産地である。繊維業の低迷からか人口は現在 9 万人強で推移し、隣の岩倉市などと共に名古屋市のベッドタウン的性格が強まった。扶桑町も同様である。犬山市は城下町であり、木曽川の鵜飼、大規模な遊園地などで知られる観光都市である。1957 年頃から工業が誘致され、近年ベッドタウンとしての性格を強めている。人口は 1970 年の 5 万人から 1990 年、6 万 9 千人へと増えたのは主にこのせいである。春日井市は 1957 年頃から 1960 年頃までは豊田市と並ぶ大規模な工業化がなされたが、市の東部に中部圏最大の高蔵寺団地が出来、名古屋市の重要なベッドタウンとなった。人口は 1950 年から 1970 年へは約 3 倍の 16 万 2 千人に増加し、1990 年では、26 万 3 千人になっている。瀬戸市は窯業で全国に知られる都市であるが、円高による輸出不振で苦しんでいる。名鉄線の名古屋都心乗り入れが実現したこともあって、最近やはりベッドタウン化が著しい。人口は 1990 年で 12 万 3 千人である。豊田市の工業化は 1957 年からで、豊田自動車刈谷市から本拠を移した後、市内のほか周辺の安城市、刈谷市、岡崎市、三好町、高岡町 (現豊田市) などにも工場、下請工場が造られた。付随して住宅化も進んだ。人口は 1970 年の 19 万 7 千人から 1990 年現在 32 万 2 千人まで増加している。名古屋市への名鉄線の開通により名古屋市へ出る人も増加したがむしろ奥三河地方を初め、周辺地域から昼間人口を吸収している。名古屋市からは独立しているといつてよい。挙母神社には城下町、旧挙母市の名残の山車が出る祭も見られる。刈谷市は輸送機器の工場誘致で人口は 1950 - 70 年に約 3 倍になり、1990 年現在 11 万 7 千人である。本調査における名古屋圏の東端にある岡崎市は地方中核都市で、歴史的にも政治、経済、文化的にも名古屋からほぼ独立しており、周辺市町村からの昼間人口を吸収している。醸造、紡績が知られるが、近年は豊田市に近いこともあり輸送機器の工場も増加している。1950 年からすると 1990 年の 300 万人の人口は約 3 倍である。半田市は醸造業、綿織物、臨海工業地域の輸送機器工業も盛んである。知多半島の奥からの通勤・通学者を吸収すると共に、名古屋市のベッドタウンの面もある。

b) 劇場について

都市を選択した後、1987 年、1989 年に行った雑誌「ナプカジャ」に掲載されたパフォーミング・アーツ上演劇場を抽出する予備調査や『全国ホール名鑑』、『全国公立文化施設協会名簿』などを参考にして劇場を抽出した。今回の調査都市には一般に公開された民間ホールは無かったので、調査対象

は全て公立のホールであった。

第2章 調査項目の概要、調査方法、調査期間

第1節 調査項目の概要

(1) 調査項目

- 01 名称
- 02-1 〒 所在地
- 02-2 TEL
- 03-1 劇場設立趣旨
- 03-2 設立後の成果と問題点
- 03-3 今後の抱負
- 04 経営形態
- 05 (劇場形態)
 - 05-1 外部写真 (有 無) ビデオ撮影 (有 無)
 - 05-2 設計者 () 施工会社 ()
 - 舞台工事 () 照明工事 ()
 - 音響工事 ()
 - 05-3 図面 (有 無)
 - 05-4 (設備の水準)
 - 05-4-a (照明)
 - a1 回線数 (リムパックのキャパシティ)
 - a2 照明の種類と個数
 - a3 その他の特色 (映写設備など)
 - 05-4-b (音響)
 - b1 音響設備
 - b2 音響効果
 - 05-4-c (舞台形態)
 - c1 固定型、自由移動型、その他 7
 - c2 舞台の広さ ()
 - c3 舞台の高さ ()
 - c4 袖の広さ ()
 - 05-4-d (舞台関連)
 - d1 回り舞台の有無 (有 無)

- d2 セリの昇降の有無（有 無）
- d3 吊り物バトン（電動 手動）（ ）本
- d4 特殊な機械設備（ ）
- d5 奈落（有 無）（ ）
- d6 楽屋（有 無）（ ）
- d7 花道（有 無）（ ）
- d8 シャワー室または浴室（有 無）

稽古場またはリハーサル室（有 無）

05-4-e1 客席数 minimum—maximum（ ）

e2 客席の形態：ワンスロープ型、階上席あり、フラットフロアその他（ ）

05-4-f その他の特色

05-4-g 使用料金

06（劇場の歴史）

06-1 建築年：

総工費：

06-2 改築

06-3 劇場建築場所の変化や前身など

06-4 管理の変化

07（上演史関係）

07-1 上演史：（年）（劇団名）（作品名）（演出）など

07-2 主体的に呼んだ劇団、主体的に取り組んだ企画。

07-3 利用者（劇団）の傾向

07-4 記憶に残る上演

07-5 その他。情報を提供する資料など。

08（自主事業関係）

08-1 自主事業の有無（有 無）

08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額（過去3年間）

負担機関1（ ）昭和63年度（ ）万円

平成元年度（ ）万円

平成2年度（ ）万円

負担機関2（ ）昭和63年度（ ）万円

平成元年度（ ）万円

平成2年度（ ）万円

08-3 年間自主事業件数とその内訳

※ 詳細なデータが入手出来た場合は上演史と同じく第4章で紹介する。

- 08-4 自主事業の立案原則・基準
- 08-5 自主事業と地域の連携状態
- 08-6 今後の自主事業のあり方
- 08-7 同一地区の興行環境について

(2) 項目の説明

さて調査項目の主なものについて述べたい。項目は先に実施した名古屋市、三重県の劇場調査のものを踏襲している。自主事業の項目は三重県の調査から加えたものである。

まず 03-1 の劇場設立趣旨で設立の趣旨と併設されている他施設について調べた。05 の各項目は「劇場」の性能、設備及び使い勝手に関する最小限の情報が得られるよう設定した。当該劇場の設備が調査した劇場の中でどのような位置や傾向を持っているかを知るのに役立つことを願う。

劇場の変遷は、演劇の歴史であると同時に社会の歴史である。06-3 と 08-7 で当該ホールの前身と、その都市の芝居小屋、映画館など歴史的な流れを知ろうとした。民間の芝居小屋や劇場が戦後 10 年の間に消失した後は、最初は公民館が、後には公立のホールだけが「演劇」の灯火を守ってきた。公的文化政策は今後総合的に調べなくてはならないが、今回はホール運営に関わることに限った。

私達は所在地、さらには都市での地理的位置に着目して 03-1、06-3、08-7 などでもその一端を調べた。劇場の置かれた位置に意味があると考えからである。地方都市に新たに文化空間として劇場ホールを建築する場合などは思想がはっきり見える。一般には合理性、利便性、効率といった機能が重視されることが多い。古い都市の劇場の場合、神社と同じく都市の祝祭空間としての性格が見えることも多い。地理的位置は劇場ホールの設置者がどういう方向性を与えようとしたかを物語ってくれる。その結果を分析できれば、都市が人間に優しくあるためには、演劇文化がどのように関わるべきかが見える。

07-1 の上演史関係の項目は、劇場がどのような「演劇」を提供してきたかを知ることによって劇場経営者が「演劇」をどのように捉えているか、観客がどのような演劇を期待しているかを見るため設定した。

0-8 の自主事業関係の諸項目について。自主事業——と言っても本調査ではホール独自のそれであるが——は、地域の「演劇」活動に直接的に影響する。私たちはこれに大きな関心を抱いて調査項目を設定している。

08-2 自主事業費の年間支出額。支払い報酬、人件費、広告宣伝費が中心。補助金額は別記した。

第2節 調査方法

従来と同じアンケート形式によった。原則としてアンケートを送付し、記入してもらったものを基に、関係者にさらに詳しい話を聞いた。ホールに案内してもらい、現場でも質問を続行した。最後に、ホール図面、設備詳細、条例集、自主事業資料などの資料を入手した。

第3節 調査期間

最初1990年3月（犬山市）、同8月（江南市、岡崎市）に実施し、次いで1991年7月-8月に集中的に行なった。同年12月（豊田市、瀬戸市の一部、佐屋町）、1992年1月にも追加調査を行なった。

第三章 調査データ

〔001〕

- 01 愛知県津島勤労福祉会館（中ホール）&（小ホール）
- 02-1 〒496 津島市萩原町椋木5番地
- 02-2 TEL 0567-24-1135
- 03-1 劇場設立趣旨：この会館は、海部・津島地域の勤労者を中心とした県民の文化教養及び体育の向上と余暇の健全な活用に供するため、各種大会、宿泊研修などのできる総合的福祉施設として愛知県が建設した。（平成3年度事業概要より）
- 04 経営形態：愛知県施設。
- 05-1 外部写真 （有） ビデオ撮影（有）
- 05-2 設計者 （伊藤建設設計事務所） 施工会社 （不動建設）
舞台機構工事（不明） 舞台照明工事（丸茂電気）
舞台音響工事（松下総合通信）
- 05-3 図面 （有）
- 05-4-a （照明）
 - a1 設備総容量 80 KVA 負荷回路数 50 回路
強電パッチング方式
サイリスタ調光フェーダー 6 kw 16 本
 - a2 センタースポットライト（クセノン） 0.5 kw 2 台
ホリゾントライト 上：200 w 48 灯 4 色
下：100 w 60 灯 4 色
(詳細は「全国ホール名鑑」1991年版 785頁参照)
 - a3 その他の特色 映写設備 16 mm エルモ 1 台
- 05-4-b （音響）
 - b1 調整卓 松下通信製 15 in 10 out
プロセニアムスピーカー 松下通信製 2 way 2 台
パワーアンプ 松下通信製 60 w 2 台
ステージスピーカー “ 2 way 2 台
 - b2 音響効果 反響板あり。残響時間数値不明

05-4-c	(舞台形態)			
c 1	固定型			
c 2	舞台の広さ	(間口 12 m×奥行き 6 m)		
c 3	舞台の高さ	(15.25 m)		
c 4	袖の広さ	(上手 21.6 m ² 下手 18 m ²)		
05-4-d	(舞台関連)			
d 3	吊り物バトン	(手動)(3)本		
d 6	楽屋	(有)(洋室 1 12.3 m ²)		
05-4-e 1	客席数	(固定 500 席)		
e 2	客席の形態	ワンスロープ型		
05-4-g	使用料金			
		勤労者団体	その他	
	平日	8:30-21:30	2万1千900円	3万2千900円
	土日祝	〃	2万1千900円	4万1千100円
	(詳細は保存資料参照)			

(小ホール) 映画上映や会合用が目的。

05-4-a	舞台用照明はない。
05-4-b	舞台用音響はステージマイクのみ。
05-4-c	(舞台形態)
c 1	固定型
c 2	舞台の広さ (間口 5.4 m×奥行き 3 m)
c 3	舞台の高さ (4 m)
c 4	袖の広さ (上手約 3 m ² 下手約 3 m ²)

05-4-d 6	控え室 1
05-4-e 1	客席数 (移動 300 席)
e 2	客席の形態：フラット型(講堂型)
05-4-f	スクリーン (4530 × 1800 mm)

06	(劇場の歴史)
06-1	建築年：1977 年 6 月 18 日開館 総工費：15 億 9 千 740 万円(宿泊施設、テニスコート含む)
06-4	財団法人愛知県労働協会の委託管理。
07	(上演史関係)
07-1	上演史：演劇上演は高校演劇連盟が利用する程度。 洋楽や邦楽民謡などの発表会が中心である。

- 07-3 利用者（劇団）の傾向 高校の演劇部。
- 07-4 記憶に残る上演 とくにない。
- 08-1 自主事業の有無 （無）
- 08-7 同一地区の興行環境について：津島市民会館（津島市藤波町3-89 tel 0557-25-2128）があるが、体育館なので演劇やコンサートには向かない。天王川公園で新能が催される。また仮設舞台で屋外の演劇パフォーマンスがあることもある。最近誕生した地元の演劇鑑賞協会は舞台設備がある佐屋町の中央公民館を使って年間4回の演劇公演を行っている。また佐織町にも公民館がある。市内には一宮、尾西に並ぶ織物工業が地場産業としてあるが、ほかにこれという産業がなく、名古屋のベッドタウン的色彩が強い。名鉄電車が名古屋につながっており、演劇やコンサートは名古屋で鑑賞して十分帰宅出来る距離にある。市内に映画館はない。

〔002〕

- 01 佐屋町中央公民館
- 02-1 〒496 愛知県海部郡佐屋町大字稲葉字米野303番地
- 02-2 TEL 0567-28-3000
- 03-1 劇場設立趣旨：町民の文化発表の場と、公民館活動の拠点。
- 03-2 設立後の成果と問題点：建設後7年目で100回前後のホール利用があること、及び職員の勤務体制の改善。
- 03-3 今後の抱負：今後も住民の生涯教育のきっかけ作り、また自主学習の場として親しまれたい。
- 04 経営形態：公民館法に基づく町直営館。
- 05 （劇場形態）
- 05-1 外部写真 （有） ビデオ撮影 （無）
- 05-2 設計者 （石本設計事務所） 施工会社 （奥村組）
舞台工事 （三精輸送機） 照明工事 （松村電気制作所）
音響工事 （ナショナル通信特機）
- 05-3 図面 （有）
- 05-4 （設備の水準）
- 05-4-a （照明）
- a1 デジタルクロスバー方式 60回路
プリセット 3段
- a2 センタースポットライト（クセノン）2kw 2台
ホリゾントライト 上： 8灯 4色

下： 8灯 4色

フットライト 1列

花道フット 1列

ボーダーライト 2列 8回路

サスペンションライト 3列 1kw 12回路

トーメンタルライト 上下6回路

シーリングライト 1列 1kw 24台

a3 その他の特色 16mm 映写機 2台

05-4-b (音響)

b1 はねかえりスピーカー 6組

b2 残響時間 (500 Hz)

反響板使用時 1.37 秒 (空席時) ~ 1.2 秒 (80% 満席時)

1.05 秒 (幕設備時) ~ 0.95 秒 (同上)

05-4-c (舞台形態)

c1 固定型

c2 舞台の広さ (間口 14 m × 奥行き 10.5 m)

c3 舞台の高さ (7 m)

c4 袖の広さ (上手 4.7 m² 下手 3.9 m²)

05-4-d (舞台関連)

d3 吊り物バトン (手動) (9) 本

d6 楽屋 (有)

d7 花道 (有)

d8 シャワー室または浴室 (有)

05-4-e1 客席数 (固定 600 席)

e2 客席の形態：階段式 (母子室あり)

05-4-f その他の特色 難聴者用ヘッドホン 10 本、車椅子用 6 席

05-4-g 使用料金

全日 9:00-21:00 2万600円

06 (劇場の歴史)

06-1 建築年：1985 年

総工費：13 億 2 千 600 万円

07 (上演史関係)

07-3 利用者 (劇団) の傾向：発表会、講演会が主。幼児・児童向けまた中高年令者向けが多い。

07-4 記憶に残る上演：名フィル (平成 2 年)

07-5 その他。情報を提供する資料：「津島演劇鑑賞会」の規約と過去 3 年間の会報やちらし (事

務局の浜田氏提供)

- 08 (自主事業関係)
- 08-1 自主事業の有無 (有)
- 08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額(過去3年間)
- 負担機関1 (佐屋町) 昭和63年度(補助金505)万円
平成元年度(同 520)万円
平成2年度(同 865)万円
- 08-4 自主事業の立案原則・基準: 来場者のアンケートを参考として職員が決定する。
- 08-5 自主事業と地域の連携状態: 児童劇等において子供会、民謡ショーにおいて老人クラブ連合会と共催する。
- 08-6 今後の自主事業のあり方: 青年層へアピールしたい。
- 08-7 同一地区の興行環境について: 津島の演劇鑑賞協会(会員約800名)が年間4公演利用している。津島の勤労福祉会館は舞台の奥行きやタッパの高さが不足する。照明その他施設も不足している。津島市民会館は体育館でホールではない。映画館はない。

◆ ◆

[003]

- 01 一宮市民会館 Ichinomiya Citizen's Auditorium
- 02-1 〒491 一宮市朝日2丁目5-1
- 02-2 TEL 0586-71-2021
- 03-1 劇場設立趣旨: 公民館があったが、新しい文化の殿堂として「(市民の)生活、文化、教養の工場と福祉の増進に資するべき目的」(会館パンフ 前市長森氏挨拶文 1974年5月1日)のために建設された。
- 03-2 設立後の経過: スポーツ文化センター(1978年開設)、地域文化広場(1980年開設)、愛知県一宮勤労福祉会館(1984年会館)が出来て機能分業が進んだ。
- 03-3 今後の抱負: 現在の市長神田眞秋氏は「完成しましてから、16年余経過いたしました。(中略)当会館が、わが郷土一宮を見つめ直し、21世紀に向かって活力あるわが街の出発の拠点にしてまいりたい。」(会館パンフ冒頭挨拶 1991年1月)と述べている。前市長はそれまで無かった文化的活動の拠点という発想で開館したが、現在ではその視点に加えて街の活性化の手段という積極的視点が加えられている。
- 04 経営形態: 一宮市直営館
- 05 (劇場形態)
- 05-1 外部写真 (有) ビデオ撮影(無)
- 05-2 設計者 (伊藤建築設計事務所) 施工会社(銭高組名古屋支店)
舞台機構工事(三精輸送機) 舞台照明工事(丸茂電気)

舞台音響工事（松下通信）

05-3 図面 (有)

05-4 (設備の水準)

05-4-a (照明)

a1 設備総容量 250 KVA 負荷回路数 200 回路

強電パッチング方式

サイリスタ調光フェーダー 6 kw 60 本

プリセット 3 段

a2 センタースポットライト（クセノン） 2 kw 2 台

ホリゾントライト（上下） 300 w 72 灯×2 4 色

（詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 794 頁参照）

a3 その他の特色

16 mm 映写機 1 台、35 mm 映写機 2 台

05-4-b (音響)

b1 調整卓 松下通信製 26 in 9 out

プロセニアムスピーカー 1 基 3 way アルテック製

ステージスピーカー 2 基 3 way アルテック製

反響板あり。スタンウェイフルコンピアノ 1 台。

b2 残響時間 1.3 秒

05-4-c (舞台形態)

c1 固定型

c2 舞台の広さ (18 m×15 m)

c3 舞台の高さ (8.5 m)

c4 袖の広さ (上手 50 m² 下手 124 m²)

05-4-d (舞台関連)

d2 セリの昇降の有無 (有) (1.8 m×1.2 m)

d3 吊り物バトン (手動) (11) 本

d5 奈落 (有)

d6 楽屋 (有) (洋室 4、和室 3、個室 2)

d8 シャワー室または浴室 (有)

05-4-e1 客席数 (固定 1588 席)

e2 客席の形態：スロープ型の 2 階式（オーケストラピットあり）

05-4-g 使用料金（入場料百円以下が非営利の場合。営利の場合 50%～倍額になる。）

平日 全日 9：00-21：00 7 万円

土 全日 同 8 万 6 千円

日祝 同 9 万 6 千円

06 (劇場の歴史)

06-1 建築年：1974 年 5 月 1 日開館

総工費：8 億 4 千万円

06-4 管理形態：財団法人一宮市民会館管理公社の委託管理（一宮市総務部長が法人の理事長を
兼務。また同法人職員 11 名の内一宮市から 7 名出向）

07 (上演史関係)

07-5 会館パンフ 2 種。ホール利用の手引き。平成 3 年八月ホール予定表。会館自主事業記録（上
演記録部分のコピー）。一宮市の地域文化誌「CITY-1」(no. 18)。一宮文化団体協議会発
行の「いちのみやの文化」(第四号)。インタビュー記録：会館係長鵜飼氏。

08 (自主事業関係)

08-1 自主事業の有無 (有)

08-2 自主事業費の負担機関その年間予算総額

負担機関（会館管理公社）。事業基金 1000 万円があるが、それは手をつけることが出来な
い。一宮市から事業企画への補助はなく、事業が収支ゼロになるように計画することは容
易ではない。

08-3 年間自主事業件数とその内訳

年間 6 本を目処に計画している。以下紹介する。

(1983 年度)

6 月 宝塚歌劇月組公演

10 月 五輪真弓コンサート

11 月 東京公共楽団演奏会

12 月 小鳩くるみコンサート

1 月 新春お笑い市民寄席

2 月 親子名画鑑賞会

2 月 NHK 公開録画真打ち競演

(1984 年度)

4 月 親子名画鑑賞会

5 月 NHK 交響楽団演奏会（開館 10 周年記念）

7 月 中村雅俊コンサート

9 月 宝塚歌劇星組公演

10 月 文化講演会（草柳大蔵）（開館 10 周年記念）

11 月 小山実稚恵ピアノリサイタル

11 月 石川優子コンサート（new music）

1 月 桂三枝独演会

2月 親子名画鑑賞会

(1985年)

10月 宝塚歌劇星組公演

11月 南こうせつコンサート

11月 中村紘子ピアノリサイタル

1月 民謡の祭典（原田直之、岸千恵子ほか）

2月 親子名画鑑賞会

(1986年)

6月 文化講演会（金田一春彦）

9月 宝塚歌劇花組公演

10月 来生たかおコンサート

10月 東京交響楽団

1月 新春お笑い市民寄席

2月 親子名画鑑賞会

(1987年)

8月 親子名画鑑賞会

9月 宝塚歌劇星組公演

11月 宮沢明子ピアノリサイタル

11月 堀内孝男コンサート（new music）

1月 新春お笑い市民寄席

2月 名画鑑賞会（植村直樹物語）

(1988年)

4月 宝塚歌劇雪組公演

7月 中村紘子ピアノリサイタル

8月 文化講演会（はらたいら）

8月 親子映画鑑賞会

12月 イルカコンサート

1月 新春市民寄席（吉本新喜劇）

月 婦人の集い文化講演会（ジェームズ三木）社会教育共催

08-4 自主事業の立案原則・基準：管理公社職員による委員会において年間6本の企画を行っている。

08-5 自主事業と地域の連携状態：地域の企業主催の利用（カゴメぬいぐるみ人形劇場、スミセイスーパーライブなど）や文化団体（一宮市文化団体協議会、一宮バレエスクールなど）の発表会の利用がある。

08-7 同一地区の興行環境について：一宮駅周辺に「テアトル松竹」「菊栄」「大映」「ステーショ

ン」があった。「テアトル松竹」は以前芝居小屋であった。また浅井町にも映画館があった。以前は芝居小屋であった。葉栗村に「島文楽」が残っている。27万都市でありながら現在市内に映画館は一つもない。市内の施設として一宮勤労福祉会館（愛知県施設）があり、固定席607席のホール（舞台16.5m×8m×7m）を持っている。一宮親子劇場が児童向けの演劇上演を企画している。

地域文化広場（一宮市大字鳶ノ島字珠振1-1 電話番号0586-51-2180）は国と県と市の共同出資で総額10億6000万円の予算で建設された。管理公社によって運営されている。一宮市から委託料として人件費含め約7200万円の援助がある。貸し館の他に婦人文化教室や児童文化教室を開き、広報によって受講募集をしている。ホールはない。

一宮スポーツ文化センター（一宮市真清田1丁目2-30 電話0586-24-1881）は、財団法人によって管理されている。建設費用は15億円。一宮市からの出向職員と補助金（運営費部分で3000万円）がある。自主事業としては文化教室やスポーツ大会の企画などがある。

◆ ◆
〔004〕

01 愛知県一宮勤労福祉会館

02-1 〒491 一宮市若竹三丁目1-12

02-2 TEL 0586-77-6612

03-1 劇場設立趣旨：この会館は、尾張地域の勤労者を始め、広く県民の文化教養及び体育の向上と余暇の健全な活用場として利用できるように愛知県が建設した総合福祉施設である。

04 経営形態：愛知県施設

05 （劇場形態）

05-1 外部写真 （無） ビデオ撮影（無）

05-2 設計者 （大建設計名古屋事務所） 施工会社（不明）

舞台機構工事（森平舞台機構）

舞台照明工事（栗原・マルエム共同企業体）

舞台音響工事（同上）

05-3 図面 （無）

05-4-a （照明）

a1 設備総容量 150 KVA 負荷回路数 46 回路

強電パッチング方式

サイリスタ調光フェーダー 6kw 30本

プリセット3段

[005]

- 01 江南市民文化会館（大ホール） & （小ホールふじのはな会館）
- 02-1 〒483 江南市北野町川石 25-1
- 02-2 TEL 0575-5-2321
- 03-1 劇場設立趣旨：市政 30 周年を記念して設置。「市民が直接文化、芸術にふれることのできる場、家族そろってふれあえる場として」県とタイアップして江南地域文化広場が完成。市に所属するのは大ホール、展示室を持つ市民文化会館と歴史民俗資料館。県の施設はふじのはな会館（小ホール、音楽室、美術工芸室等）、はなのき広場、つどいの広場である。市民文化会館のは設計はコンペで行なわれた。旧興和紡績の跡地。427 席の小ホールは各種の発表会、カラオケなどに広く利用されている。市民も受身で楽しむことから、次第に自ら楽しむようになってきた。
- 03-3 今後の抱負：設立趣旨に沿って地域の人々に還元してゆきたい。舞台、音響、建物等維持管理の専門家各 1 名が常駐している。そのおかげで公演も管理も非常にうまく行っている。
- 05 （劇場形態）
- 05-1 外部写真 （無）ビデオ撮影（有）
- 05-2 設計者（黒川設計事務所） 施工会社（清水・昭和土建建設 JV）
舞台工事（三精輸送機） 照明工事（八千代・酒井建設 JV）
音響工事（松下電器）
- 05-3 図面 （有）
- 05-4 （設備の水準）
- 05-4-a （照明）
- a1 設備総容量 300 KVA 負荷回路数 181 回路
- a2 センタースポットライト（クセノン） 2 kw 2 台
クロスバー方式
フェーダー 90 本 プリセット 3 段
センタースポットライト（クセノン） 2 kw 2 台
ホリゾントライト 上：500 w 60 灯 4 色
下：200 w 90 灯 4 色
ボーダーライト 4 列 切替え 1 列当り 92 灯 4 色
（詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 808 頁参照）
- a3 16 mm 兼 35 mm 映写機 2 台
- 05-4-b （音響）
- b1 調整卓 ラムサ製 16 in 8 out
サブ ラムサ製 8 in 2 out

プロセニウムスピーカー 2基 3 way アルテック製
ステージスピーカー 2 way アルテック製
ウォールスピーカー 8台 アルテック製
反響板あり。

スタインウェイフルコンサートピアノ 1台

- b2 音響効果 残響時間 1.6 秒
- 05-4-c (舞台形態)
 - c1 固定型、一部可動型
 - c2 舞台の広さ (間口 19 m 奥行き 18 m)
 - c3 舞台の高さ (8.3 m)
 - c4 袖の広さ (上手 117 mxm 下手 147 mxm)
- 05-4-d (舞台関連)
 - d3 吊り物バトン (手動) (10) 本
 - d6 楽屋 (有) (5 室)
 - d7 花道 (有) (1.6 mx 10.1 m)
 - d8 浴室 (有)
 - リハーサル室 (有) (3 室: 24 m²; 41 m²; 78 m²)
- 05-4-e1 客席数 (固定 1276 席、可動 116 席合計 1400 席 身障者席 8 席含む)
- e2 客席の形態: ワンスロープ型
- 05-4-g 使用料金 (営利目的で入場料をとる場合 3 倍、とらない場合 2 倍)
 - 平日 9:00-21:30 7 万円
 - 土日祝日 同 8 万 4 千円
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年: 1984 年 10 月開館
総工費: 33 億 3 千万円
- 07 (上演史関係)
- 07-5 その他。情報を提供する資料: 管理公社規定集、文化広場条例集、同管理規定集、「文化広場の性格」、建設スケジュール表、自主事業実施報告書 (2 種) しおり、利用状況表、インタビュー: 大脇昭夫氏 (平成 2 年)、平松和伸氏、岩田氏。
- 08 (自主事業関係)
- 08-1 自主事業の有無 (有)
- 08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額 (過去 3 年間)
 - 負担機関 1 (江南市) 昭和 63 年度 (3364) 万円
 - 平成元年度 (2967) 万円
 - 平成 2 年度 (2443) 万円

以下は補助金額である。1年間の自主事業に赤字が出れば先ず繰越金 次いで補助金を充当し、最後に補正予算という順。

負担機関1 (江南市) 昭和63年度(補助金等285)万円

平成元年度 (同 899)万円

平成2年度(剰余 87)万円

但し、平成2年度は他に美術展を行いトータルでは1万円の補助金支出あり。平成元年度も美術展を実施。

08-3 年間自主事業件数とその内訳

年間6回ほど。子供向け演劇、歌舞伎毎年1回。宝塚歌劇団ほぼ毎年1回。

(1987年度)

8月 夏休み子供芸術劇場「ジャックと豆の木」(2回) 劇団飛行船

7-9月 名画鑑賞会(5回 邦画3 洋画 2)

8月 南極写真展

9月 松竹新喜劇

10月 武田鉄矢コンサート

11月 宝塚歌劇花組公演(2回)

12月 市民歌謡祭

1月 江南お好み演芸会

(1988年度)

5月 子供ミュージカルファンタジー 白雪姫と七人の小人たち

6月 アルフレッド・ハウゼ タンゴ・オーケストラ

松竹特別公演「必殺仕事人スペシャル」

10月 宝塚歌劇星組公演(2回)

10月 虹の絵師「山本良比古の世界」絵画展

11月 松山千春コンサート

1月 吉本新喜劇

(1989年度)

7月 ビリーボーン楽団

8月 とんちんかんちんいっきゅうさん(ぬいぐるみ人形劇)

10月 イルカコンサート

10月 松竹錦秋公演 藤十郎の恋(2回)

11月 ミュージカル アニーよ銃をとれ(2回)

1月 落語東西名人会

08-4 自主事業の立案原則・基準：原則としては市民各層に喜ばれる演目、1回5000円以内の入場料を考えている。原案は、担当者2名が理事などにはかりながら作成、理事会で承認

を受け、実施。第3セクターであるだけに、市議会からは自主事業の収支にきびしい目が向けられがちであるが、文化行政を具体化する立場にある者としては、市民に満足して貰うことが大切で、今後も双方の理解が得られるよう努めたい。

- 08-5 自主事業と地域の連携状態：他の市町村の演目と競合しないように、また時には参考にしながら計画を立てている。
- 08-6 今後の自主事業のあり方：これまではどうしても平均的なものにならざるを得なかったが、これからは江南市独自の特色も出せたらと思う。平成3年、自主事業としては初めて小ホールで行なった人形浄瑠璃公演が成功したので、これからは小ホールも使っていきたい。舞台と客席の一体感が得られるのと、採算の点でも好都合なことがある。このような古典芸能は今後の1つの方向ではないかと考えている。
- 08-7 同一地区の興行環境について：名鉄江南駅から歩いて5分と交通の便がよいので、よく利用されている。入場者は市民60%、近隣の市町村40%位である。近隣の内訳は一宮市、岩倉市、扶桑町、大口町、犬山市などで、数パーセントは名古屋市からも来場している。市の人口は9万2、3千人で安定している。県下の平均よりは若年層が多い。幸い、切符は一般的にはよく売れるが、歌舞伎などでは地元で見るとより、ショッピングも兼ねて名古屋の専門劇場で見たいという熱心なファンも少なくないのが悩み。広報活動は、市公報の他、ラジオ局が協賛の場合は無料でスポット広告を入れて貰うことがある。名鉄名古屋駅プレイガイドにもチケットを置いている

(小ホール、ふじのはな会館。)

(上記「大ホール」の項参照)

05 (劇場形態)

05-4 (設備の水準)

- a1 設備総容量 200 KVA 負荷回路数 92 回路
強電パッチング方式
調光ユニット 6 kw
フェーダー 30 本 プリセット 3 段
- a2 センタースポットライト (クセノン) 1 kw 2 台
 Horizont ライト 上：150 w 63 灯 4 色
 下：150 w 54 灯 3 色
 ボーダーライト 1 列 切替え 1 列当り 54 灯 4 色
 シーリングライト 1 列 1 kw 20 台 14 回路
 サスペンションライト 2 列 10 回路
(詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 809 頁参照)
- a3 映写設備 16 mm エルモ製 2 台

- 05-4-b (音響)
- b1 調整卓 ラムサ製 16 in 6 out
 サブ調整卓 ラムサ製 8 in 2 out
 プロセニアム スピーカー アルテック製
 ステージ 同 ラムサ製
 ウォール 同 同
 反響板あり。ヤマハフルコンサートピアノ 1 台
- b2 音響効果： 残響時間 1.3 秒
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口 11 m×奥行 9 m)
- c3 舞台の高さ (6.5 m)
- c4 袖の広さ (上手 32 m² 下手 28 m²)
- 05-4-d (舞台関連)
- d3 吊り物バトン (手動) (5) 本
- d6 楽屋 (有) (2 室)
- 05-4-e1 客席数 (固定 422 席 車椅子席 5)
- e2 客席の形態：ワンスロープ型
- 05-4-g 使用料金
- | | | |
|------|------------|----------|
| 平日 | 9:00-21:30 | 2 万 2 千円 |
| 土日祝日 | 同 | 2 万 6 千円 |
- (その他は「大ホール」参照)

〔006〕

- 01 扶桑町中央公民館
- 02-1 〒480-01 愛知県丹羽郡扶桑町大字高木字稲葉 63
- 02-2 TEL (0587) 93-7211
- 03-1 劇場設立趣旨：講座の開設、集会開催、音楽・演劇の発表会の開催などを行なっていくの
 にあたっての施設として設置。(社会教育法の規定に基づき町条例を定め設置したもの)
- 03-2 設立後の成果と問題点：舞台は講演会、住民の発表会等を主として設計されているため、
 本格的な舞台公演は難しい状況にある。また、客席も平土間タイプで、催し物の都度パイ
 プ椅子を並べる方式であり、前席の人の頭などで見にくいことが多い。
- 03-3 今後の抱負：平成 2 年度で年間利用者が延べ 10 万人程度あり、今後も利用者にとって使
 いやすく、親しみの持てる施設としていきたい。また現在平成 5 年度着工を目指し文化施

設設計画が進行しており、出演者にとって満足できる舞台をつくっていきたいと考えている。

04 経営形態：扶桑町教育委員会・社会教育課が直接管理運営。照明、音響、移動椅子の設定、取り片付けなども館員が行なう。

05 (劇場形態)

05-1 ビデオ撮影 (有)

05-2 設計者(永井・多田建築事務所) 施工会社(六合建設)

05-3 図面 (有)

05-4 (設備の水準)

05-4-a (照明)

a1 設備総容量 NFB 300 A

プリセットフェーダー 20 × 2 段 マスターフェーダー 1
サイリスタ調光装置

a2 ボーダー・フット・サスペンション 各1列

センターピンスポットライト 1台

サイド用ピンスポット 2台

ホリゾントライト 上・下各1列

a3 その他の特色

16 mm 映写機 1 台、ビデオプロジェクター 1 台

05-4-b (音響)

b1 調整卓 ヤマハ製 24 in 24 out

サブ調整卓 ヤマハ製 8 in 8 out

スピーカー 4台 ラムサ製

サブウーファー 2台 ラムサ製

跳ね返りスピーカー ラムサ製

b2 簡易反響板あり。 ピアノ 詳細不明

05-4-c (舞台形態)

c1 固定型

c2 舞台の広さ (間口 12 m × 奥行 7 m)

c3 舞台の高さ (4 m)

c4 袖の広さ (不明)

05-4-d (舞台関連)

d6 楽屋 (無) (必要な場合講義室 2、和室 1 等を利用。)

05-4-e1 客席数 maximum (移動席 650 席)

e2 客席の形態：フラットフロア

全日 8:30-21:00 1万3千700円

06-1 建築年：1980 年 11 月

07-1 上演史

2部：曾根崎心中

1部：絵本太功記・二人禿

2部：伊達娘恋緋鹿子・生写朝顔話

07-4 記憶に残る上演：

扶桑町の特産で 400 年の歴史を持つ県の無形文化財である「端折傘」を題材に夢童由里子氏が作品を書き、初演した「艶姿恋朱傘」

08 (自主事業関係)

08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額（過去3年間）

平成元年度 (1300) 万円

平成2年度 (1300) 万円

年間約 15 本程度の企画で講演・フォーラム 3、古典芸能 3、コンサート・音楽祭など 3、人形劇など青少年・子供向け 2、映画会 4 の割合で計画する。

講演 第5回文化講演会 (ジェームス三木)

福祉講演会 (祖父江省念)

おもしろトーク (三遊亭円丈)

青少年健全育成講演会

— 24 —

- 文化 シャンソンメモワール（川出祥代）
ファミリークリスマスコンサート（管弦楽岐阜チェンバー）
第4回町民美術展
文化祭
人形浄瑠璃「文楽」（曾根崎心中）
邦楽・邦舞（連獅子）
野坂恵子二十弦琴ライブ
夢童由里子（一人文楽）
- 青少年 成人式（ゲスト島田歌穂）
劇団うりんこ（やけあとのブレーメン劇団）
第2回こども祭り
キャンピング講習会
ロングジャンプ大会
年少リーダー研修会
- 国際 国際交流サロン（堀内守・松下マルタ）
町民 & こども映画劇場
ラストエンペラー、父母、敦煌、となりのトトロ、大霊界、ダウントウンヒーローズ、マリリンに逢いたい
- （1989年度）
講演 第1回文化フォーラム基調講演（梅原猛）
シンポジウム（堀内守、若山滋、夢童由里子、安田文吉、）
浮世絵講演会（瀧秀水）
青少年健全育成講演会
歌舞伎講演会（山本ひさし）
- 芸術・ 第5回町民音楽祭
文化 浮世絵コンサート（真野利郎）
クリスマスコンサート（シャンソン & タンゴ～エスペランサ）
第5回町民美術展
文化祭
近松座（歌舞伎 夕霧阿波鳴波）
松本道子バレエ団（真夏の夜の夢）
東京名人会（林家木久蔵、マギー司郎、千夜一夜）
日本の伝統（からくり人形）
親子で狂言と囃子を楽しむ会（藤田流家元）
- 青少年 成人式（ゲストシャンソンの妖精）

人形劇ひとみ座（マウイチキチキ）

第3回こども祭り

キャンプ講習会

ロングジャンプ大会

年少リーダー研修会

国際 国際交流サロン（留学生との交歓会 十二単衣と能衣を楽しむ）

町民 & こども映画劇場

風の又三郎、黒い雨、千利休、あ・うん、春日局、芙蓉鎮、魔女の宅急便

（1990 年度）

講演 第2回文化フォーラム 日本の伝統 能シンポジウム（観世流家元 観世清和、大倉流家元 大倉源次郎、国立文化財研究所 羽田）

青少年健全育成講演会

特別講演会（三浦朱門）

芸術・ 第6回町民音楽祭

文化 ドラマチックシャンソンコンサート（井関真人）

クリスマスコンサート（シャンソン & タンゴ～前田はるみ）

第6回町民美術展

文化祭（春・秋2回開催）

近松座（歌舞伎 堀川波鼓）

いけ花フォーラム（石田流家元）

女性文化大学（きもの文化と心の美）

町民野点茶会

子ども神楽フェスティバル

青少年 成人を祝う会（シャンソンコンサート）

松岡令子バレエ団（白鳥の湖）

人形劇ひとみ座（セロ弾きのゴーシュ）

第4回こども祭り

キャンプ講習会

ロングジャンプ大会

年少リーダー研修会

町民 & こども映画劇場

フィールドオブ・ドリームス、タスマニア物語、天と地と、動天、大誘拐

08-4 自主事業の立案原則・基準：社会教育課職員の協議による。

08-5 自主事業と地域の連携状態：当町文化協会、婦人会を始め各種団体と連携をとって進めている。

- 08-6 今後の自主事業のあり方：移動興行を受け入れることから、独自の作品づくり・上演へと進みたい。
- 08-7 同一地区の興行環境について：当町には文化会館など他の文化施設はなく、競合はないが隣接市（犬山市・江南市）に大・小ホールを持つ文化会館がある。

◆ ————— ◆

[007]

- 01 犬山市民文化会館
- 02-1 〒484 所在地愛知県犬山市羽黒摺墨 11
- 02-2 Ⅲ (0568) 67-2411
- 03-1 劇場設立趣旨：当市は古来城下町として豊富な歴史的文化遺産を残している。しかし芸術、文化活動のための施設が少なく市民の強い要望に応じて建設。本会館と一体の建物の中に、全市域を対象とした中央公民館である南部公民館が、本館より2年遅れで、1984年開館。定員362人の講堂がある。
- 03-2 設立後の成果と問題点：会館の自主公演（年7-8回）、及び市民芸能祭、各種民謡発表会、箏曲発表会、舞踊発表会、親子観劇会等に広く利用されている。ただ、市の中心部から南方約3kmにあり、公共交通機関が名鉄小牧線（1時間あたり2-3本）のみのため利用者にやや不便である。車利用者には約500台収容の駐車場を備えているが、なお不足気味である。
- 03-3 今後の抱負：自主公演の充実を図り、また各種発表会、講演会、企業の講習会など市民の利用をいっそう働きかけていきたい。
- 04 経営形態：犬山市直営（社会教育課）。
- 05 （劇場形態）
- 05-1 外部写真 （有） ビデオ撮影（有）
- 05-2 設計者（久米建築事務所） 施工会社（銭高組）
舞台工事（三精輸送機） 照明工事（東芝電材）
音響工事（教育産業）
- 05-3 図面 （無）
- 05-4 （設備の水準）
- 05-4-a （照明）
- a1 設備総容量 300 KVA 負荷回路数 199 回路
強電パッチング方式
サイリスタ調光フェーダー 6 kw 60 台
プリセット3段
- a2 センタースポットライト（クセノン） 2 kw 2 台

ホリゾントライト 上：300 w 18 灯 4 色

下：300 w 16 灯 w 4 色

(詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 795 頁参照)

a 3 その他の特色

16 mm 映写機 1 台、35 mm 映写機 2 台

05-4-b (音響)

b 1 調整卓 松下通信製 16 in 16 out

サブ調整卓 ラムサ製 4 in 2 out

プロセニウムスピーカー 1 基 2 way アルテック製

ステージスピーカー 1 基 2 way アルテック製

ウォールスピーカー 2 台 松下通信 製

反響板 ヤマハフルコンサートピアノ 1 台

b 2 音響効果 数値不明

05-4-c (舞台形態)

c 1 固定型

c 2 舞台の広さ (間口 19 m×奥行 14 m)

c 3 舞台の高さ (8 m)

c 4 袖の広さ (上手 167 m² 下手 84 m²)

05-4-d (舞台関連)

d 3 吊り物バトン (手動) (13) 本

d 4 特殊な機械設備 オーケストラピット (80 m²)

d 6 楽屋 (有) (洋室 2 室 和室 2 室)

d 7 花道 (有) (舞台両側) 1.1 m×10 m

d 8 浴室 (有) (2 室)

d 9 リハーサル室 (有) (1 室) (練習室 3 室)

05-4-e 1 客席数 (固定 1,096 席 可動 124 席 うち車椅子用 6 席)

e 2 客席の形態：ワンスロープ型

05-4-g 使用料金 (入場料最高額が 1000 円以下の時は下掲額の 2 倍、1000 円以上の時 3 倍。営
利等の場合 2 倍となる。)

平日 9：00-21：00 6 万 1 千 800 円 (消費税込)

土日祝日 同 8 万 2 千 400 円 (")

06 (劇場の歴史)

06-1 建築年：1982 年 5 月完成。8 月 4 日開館

07 (上演史関係)

07-5 その他。情報を提供する資料：しおり。利用案内、照明設備資料。自主事業公演一覧。イ

インタビュー記録：澤田義範氏

08 (自主事業関係)

08-1 自主事業の有無 (有)

08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額(過去3年間)

収支はこれまでほぼつり合っていた。赤字が出れば補正予算を組む。

負担機関1 (犬山市) 昭和63年度(1760)万円

平成元年度(2260)万円

平成2年度(2370)万円

08-3 年間自主事業件数とその内訳

現在は年間約6本、2000-2200万円の事業費で実施している。

(1983年度)

5月 札幌交響楽団演奏会(文化庁移動芸術祭)

9月 東映まんが祭

12月 クリスマスの夕べ(川口豊、垣内優子)

(1984年度)

5月 講演会(鈴木健二)

7月 劇団飛行船「孫悟空」(マスクプレイミュージカル)

9月 松岡バレエ特別公演

10月 名古屋青少年交響楽団演奏会(愛知芸術祭)

12月 第9演奏会

(1985年度)

4月 民謡春の祭典(原田直之ショー)

5月 日本舞踊公演(西川右近)

6月 松竹SKD歌劇「東京踊り」

7月 英亜里(new music)

8月 市民名画劇場

8月 文化講演会(宮城まり子)

10月 森進一歌謡ショー

11月 新日本フィル交響楽団演奏会

12月 名古屋フィル交響楽団演奏会

2月 桂三枝 独演会

(1986年度)

5月 高橋竹山演奏会

6月 正司歌江講演会

7月 モナコ聖カテドラル少年合唱団特別公演

- 8月 市民名画劇場
- 8月 五木ひろしビッグショー
- 9月 小山実稚恵ピアノコンサート
- 12月 ダークダックスクリスマスコンサート
- 1月 新春 お笑いオンステージ

(1987年度)

- 4月 宝塚歌劇花組公演
- 7月 山崎孝ピアノコンサート
- 9月 市民名画劇場
- 11月 東京フィル名曲コンサート
- 12月 劇団飛行船「ピノキオ」
- 1月 新春米朝、枝雀親子寄席
- 3月 細川たかし歌謡ショー

(1988年度)

- 7月 演劇公演「わが魂は輝く水なり」(文化庁移動芸術祭)
- 9月 石川さゆり歌謡ショー
- 10月 劇団飛行船「うりこ姫とアマンジャク」
- 12月 藤本真実クリスマスピアノコンサート
- 2月 武田鉄矢コンサート

(1989年度)

- 6月 劇団飛行船「ブレーメンの音楽隊」
- 7月 中村絃子ピアノリサイタル
- 7月 森進一ビックショー
- 10月 宝塚歌劇花組公演
- 11月 新日本フィル交響楽団演奏会

- 08-4 自主事業の立案原則・基準：立案は館長が行なう。幅広い層の市民に楽しんで貰うため、色々なジャンルを心がけている。
- 08-6 今後の自主事業のあり方：歌舞伎、人形浄瑠璃のような古典芸能、クラシック音楽等も良いと思うが、どうしても人がはいらない。次第に大衆芸能に移ってきている。
- 08-7 同一地区の興行環境について：民間のホールで一般に公開されているものはない。市の施設では犬山福社会館があるが、フラットフロアーで主として展示会、宴会、会議などに使われている。入場券は当館、スーパーショップのほか小牧市でも発売している。名古屋市まで名鉄線で30分なので、観劇などもそちらにでかける人が多い。

[008]

- 01 春日井市民会館
- 02-1 〒486 春日井市鳥居松町5-44
- 02-2 0568-81-5318
- 03-1 劇場設立主旨：市民の文化・教養・福祉向上のため建設。
- 03-2 設立後の成果と問題点：楽屋の増築と駐車場の確保をし、催し物の多様化に対処した。演劇を行なう場合、舞台は広いが袖のスペースが少なく内容が限られる。搬入口の高さが不十分で装置の分割を要し、舞台転換に時間がかかる。
- 03-3 今後の抱負：いずれは1500席の大ホール、500席の小ホールを持つ新会館を実現させたい。
- 04 経営形態：春日井市施設。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 ビデオ撮影(有)
- 05-2 設計者(日建設計) 施工会社(佐藤工業) 舞台工事(森平舞台機構) 照明工事(丸茂電機)
- 05-3 図面(有)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
 - a1 設備総容量 180 KVA 負荷回路数 141 回路
クロスバー方式 フェーダー 60 本 プリセット 3 段
 - a2 センタースポットライト(クセノン) 2 kw 2 台
ホリゾントライト 上：300 w 15 灯 4 色
下：300 w 14 灯 4 色
ボーダーライト 1 列当り 21 灯 4 色
シーリングライト 3 列
フロント(上下) 1 kw × 12 × 2
サスペンション 3 列
(詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 803 頁参照)
 - a3 35 mm 映写機 2 台(ドルビーサラウンド方式)
16 mm 映写機
- 05-4-b (音響)
 - b1 調整卓 不二音響信製 20 in 16 out
サブ(可般型) ヤマハ製 8 in 4 out
プロセニアムスピーカー 1 基 2 way アルテック製
ステージスピーカー 1 基 2 way アルテック製

- 反響板あり。ヤマハフルコンサートピアノ 1 台
- b 2 残響時間約 2 秒（空席時）約 1.7 秒（満席時）
- 05-4-c （舞台形態）
- c 1 固定型
- c 2 舞台の広さ（間口 19.3 m×奥行き 12 m）
- c 3 舞台の高さ（8 m）
- c 4 袖の広さ（上手 114.5 m² 下手 29.7 m²）
- 05-4-d （舞台関連）
- d 3 吊り物バトン （手動）（6）本
- d 4 特殊な機械設備 （オーケストラピット）
- d 6 楽屋 （有）（7 室）
- d 7 花道 （有）（上手、下手 1.7 m×6 m）
- d 8 シャワー室 （有）
- 05-4-e 1 客席数 （1158 席）
- e 2 客席の形態：ワンスロープ型
- 05-4-g 使用料金（営利目的で入場料が 5000 円を超える場合 4 倍、5000 円以下かからない場合 2 倍となる。）
- | | | |
|-----|------------|----------|
| 平日 | 8：30-21：00 | 4 万円 |
| 土曜 | 同 | 4 万 9 千円 |
| 日・祝 | 同 | 5 万 3 千円 |
- 06 （劇場の歴史）
- 06-1 建築年：1965 年 12 月
総工費：2 億 3 千万円
- 06-2 改築：昭和 54 年 5 月楽屋 2 を 7 に。事務所、管理棟を増築。
- 06-4 管理：総務部市民会館事務局が維持管理。事業は（財）春日井市開発公社に委託。
- 07 （上演史関係）
- 07-1 上演史：平成 2 年度の利用率は 52%。
- 07-2 主体的に呼んだ劇団：特に歌舞伎には力を入れている。
- 07-5 その他。情報を提供する資料：しおり、自主事業実施状況、使用状況報告、条例 インタビュー記録：平野輝一氏
- 08 （自主事業関係）
- 08-1 自主事業有無 （有）（昭和 51 年頃から始める。）
- 08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額（過去 3 年間）
- | | |
|--------------|------------------|
| 負担機関 1（春日井市） | 昭和 63 年度（3719）万円 |
| | 平成元年度（4563）万円 |

平成2年度 (4811) 万円

08-3 年間自主事業件数とその内訳

(1988年度)

6月 映画

陽のあたる坂道

7月 映画 二十四の瞳

8月 映画 ドン松五郎の大冒険

8月 市政45周年記念 三津五郎襲名披露公演松竹大歌舞伎

9月 映画 モモ

9月 加藤登紀子コンサート

10月 市政45周年記念 CBC 島倉千代子特別公演

10月 市政45周年記念 第12回春日井まつり前夜祭(民謡の夕べ)

11月 市政45周年記念 CBC 第7回フレッシュ歌謡まつり

11月 劇団飛行船(7ひきのこやぎと狼)

1月 市政45周年記念 お笑い吉本新喜劇

2月 武田鉄也コンサート

2月 市政45周年記念 劇座公演(ああ!ホテルみかんの)

3月 映画 がんばれ盲導犬サーブ、となりのトトロ、名作映画鑑賞会

3月 市政45周年記念 アグネス・チャンおしゃべりコンサート

(1989年度)

8月 映画 伊勢湾台風物語

8月 松竹大歌舞伎

8月 夏休みこどもおたのしみ劇場(ターボ・レンジャーショー)

9月 吉幾三オンステージ

10月 第13回春日井まつり前夜祭(民謡の夕べ)

11月 CBC 第8回フレッシュ歌謡まつり

11月 CBC 新春艶歌まつり

11月 劇団飛行船(シンデレラ)

1月 初笑い吉本新喜劇

3月 由紀さおり・安田祥子童謡コンサート

(1990年度)

4月 新庁舎竣工記念「なつかしの歌謡曲」春日八郎他

5月 同上 「第4回名フィル春日井定期演奏会」

7月 ハイファイセットコンサート

7月 夏休みこどもおたのしみ劇場(2回)

- 8月 「上海少年少女劇団」公演
- 9月 松竹歌舞伎特別公演（2回）
- 10月 第14回春日井まつり前夜祭
- 11月 中部日本放送公開録画「フレッシュ歌謡祭り」
- 11月 マスクプレイ・ミュージカル
- 12月 中部日本放送公開録画「演歌まつり」
- 1月 石川さゆり歌謡ショー

- 08-4 自主事業の立案原則・基準： 偏らず色々な演目を入れて行きたい。収入ばかり考えずに行きたい。
- 08-5 自主事業の地域のと連携状態： 当初は市民会館も自主事業を行なっている所も少なく、先行の6都市（瀬戸、刈谷、安城、蒲郡、豊川）と連絡協議会を作って情報交換を行っていた。
- 08-7 同一地区の興行環境について：名古屋市のベッドタウンとして小牧市、犬山市、江南市などと興行上同じ環境にある。これらの都市では、人々は折角地元で安い値段で見られるのに、同じ演目を見に名古屋市に出かける人が多い。また高蔵寺ニュータウンの人はあまり当館を利用せず、東部市民センターを利用するかむしろ瀬戸市市民センターに出向く。オーケストラ、児童合唱団などがある。



[009]

- 01 春日井市東部市民センター
- 02-1 〒487 春日井市中央台2-2-1
- 02-2 (0568) 92-8511
- 03-1 劇場設立趣旨：市民の福祉の増進及び文化の向上を図るため。（条例第2条）市政40周年記念事業の一環として建設した複合施設。ホールその他公民館、図書室、集会室、視聴覚室等、及び市役所出張所がある。高蔵寺ニュータウン中央部にあって当地域住民へのサービスを担っている。
- 03-2 設立後の成果と問題点：1983年6月オープン以来、年5本の自主事業、各種講演会、映画、ピアノ発表会等に利用されている。今後は、音響、照明設備を改修したい。また、職員が他の業務の他にホール業務を行なっているので、専門業者に委託したい。
- 03-3 今後の抱負：平成元年から春日井市音楽コンクール（ピアノのみ）を開催しているが今後も充実した内容で行なって行きたい。自主事業についても同じである。
- 04 経営形態：春日井市施設。（財）春日井市開発公社の委託管理。
- 05 （劇場形態）

- | | | |
|----------|----------------------|--|
| 05-1 | ビデオ撮影 | (有) |
| 05-2 | 設計者 | (黒川建築設計) 施工会社 (技建木村 (株)) |
| | 舞台工事 | (森平舞台機構) 照明工事 (松下電工) |
| | 音響工事 | (松下通信) |
| 05-3 | 図面 | (有) |
| 05-4 | (設備の水準) | |
| 05-4-a | (照明) | |
| a 1 | 設備総容量 | 120 KVA 負荷回路数 80 回路 |
| | 強電 (弱電) パッチング方式 | |
| | サイリスタ調光フェーダー | 6 KW 20 本 |
| | | 2 KW 12 本 |
| a 2 | センタースポットライト (クセノン) | 1 kw 2 台 |
| | Horizont ライト | 上: 300 w 54 灯 3 色 |
| | | 下: 300 w 54 灯 3 色 |
| | ボーダーライト | 1 列当り 18 灯 3 色 |
| | シーリングライト | 1 kw 18 台 9 回路 3 色 |
| | サスペンションライト | 3 列 |
| | (詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 | 802 頁参照) |
| a 3 | 16 mm 2 台 | 35 mm 映写機 2 台 |
| 05-4-b | (音響) | |
| b 1 | 調整卓 | 松下製 16 in 12 out |
| | サブ | 松下製 12 in 4 out |
| | プロセニアムスピーカー | 1 基 2 way |
| | 反響板あり。 | ヤマハフルコンサート 1 台 |
| b 2 | 音響効果 | 残響 1 秒 (空席状態) |
| 05-4-c | (舞台形態) | |
| c 1 | 固定型 | |
| c 2 | 舞台の広さ | (間口 12.8 m×奥行 7 m) |
| c 3 | 舞台の高さ | (7 m) |
| c 4 | 袖の広さ | (上手 22 m ² 下手 32 m ²) |
| 05-4-d | (舞台関連) | |
| d 6 | 楽屋 | (有) (3 室) |
| d 7 | 花道 | (有) (2 m×4 m) |
| d 8 | シャワー室 | (有) |
| 05-4-e 1 | 客席数 | (固定 495 席 車椅子用 5 席) |

e2 ワンスロープ型。

05-4-g 使用料金（営利目的で入場料をとらないか入場税が免除される入場料の場合2倍、入場税が課される入場料の場合4倍となる。）

平日	9:00-21:00	3万円
土曜	同	3万6千円
日・祝	同	4万円

06 （劇場の歴史）

06-1 建築年：1983年6月開館

総工費：17億円（但し東部市民センターとしての総工費）

06-2 改築：吊りもののワイヤーロープ、滑車を変更。音響設備改善（1500万円）。

06-4 管理の変化：当初市民部、1988年市開発公社に委託。

07 （上演史関係）

07-3 利用者の傾向：貸し館として年間120件。うち7割は音楽、その8割はピアノ発表会。その他、映画、演劇、講演会等。

07-4 記憶に残る上演：市川少女歌舞伎（復活公演）、前橋汀子、清水和音など。春日井市音楽コンクール

07-5 その他。情報：しおり、利用案内、舞台、客席各図面、音楽コンクール参加規定等。インタビュー記録：岩瀬敏記氏

08 （自主事業関係）

08-1 自主事業 （有）

08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額（過去3年間）

負担機関1 （春日井市）昭和63年度（補助金495）万円

平成元年度（同 515）万円

平成2年度（同 585）万円

8-3 年間自主事業件数とその内訳：年間約6回。クラシック1-3回。映画会、及び市の音楽コンクールの予選会、本選会、入賞者演奏会計3回。年により落語等も。規模の大きなものは市民会館が行なっている。

（1985年度）

6月 島田祐子コンサート

11月 しばたはつみコンサート

12月 マリンバ・ギターコンサート 徳光良康他

3月 エレクトーン86' コンサート 窪田 宏他

3月 映画「大漂流記」

（1986年度）

5月 杉谷昭子ピアノリサイタル

7月 加藤登紀子コンサート

8月 映画「オズ」

12月 クリスマスコンサート「子供たちによるバイオリンとチェロのコンサート」才能教育生徒

3月 落語「桂 枝雀独演会」

3月 映画「キング・コング」

(1987年度)

6月 前橋汀子バイオリンリサイタル

8月 映画「オーバー・ザ・トップ」

11月 落語「三遊亭円楽独演会」

12月 クリスマスコンサート「春日井リコーダーアンサンブル」

3月 北村英治 & 弘田三枝子コンサートの集い。

3月 映画「マルサの女2」

(1988年度)

6月 清水和音ピアノリサイタル

6月 おすぎと小室等トークコンサート

7月 映画「ラブストーリーを君に」

11月 エレクトーンコンサート 秋山潤一

2月 コンサート 佐々木惇利子 (pno)

3月 落語「枝雀・ざこば兄弟会」

(1989年度)

6月 山形由美フルートコンサート

8月 映画「伊勢湾台風物語」

11月 第1回春日井市音楽コンクール

12月 エレクトーンコンサート 窪田 宏

2月 落語「春風亭小朝独演会」

3月 第1回春日井市音楽コンクール入賞者演奏会

(1990年度)

6月 フィルハーモニック・ヴィルトゥオーゾ・ベルリン

7月 映画「火の雨がふる」

9月 第2回春日井市音楽コンクール予選会

11月 第2回春日井市音楽コンクール本選会

12月 クリスマスコンサート「春日井リコーダーアンサンブル」

3月 第2回春日井市音楽コンクール入賞者演奏会

8-4 自主事業の立案原則と基準：クラシック音楽を重視。地元の演奏家の紹介も。単に聴くだけでなく演奏にも参加して欲しい。その意味でも音楽コンクールを大事に行きたい。

- 08-7 同一地区の興行環境：市内には約 400 人ピアノの先生がいるが、その半分は当ニュータウンにいる。また熱心なクラシックの鑑賞団体が複数ある。



[010]

- 01 瀬戸市民会館
- 02-1 〒489 瀬戸市蔵所町 1
- 02-2 TEL (0561) 82-4191
- 03-1 劇場設立趣旨：昭和 34 年 10 月、市政 30 周年を記念して建設。定員 1000 名のホールと別棟の集会施設及び陶磁器センターからなる施設である。後に消防法により補助席を廃し、現在は定員 747 名である。開館時の町長、加藤章氏は会館を「本市文化の殿堂であり、土と火の中で焼物の美しさを創り出している市民の文化の中心にふさわしいものとなるよう意を用いた」と述べている。ホールは当時最新の折板構造を採用し、外形のイメージとして陶土山を採用している。ピロティに設置されたモザイクタイル壁画は地元出身の北川民次画伯の作品を原画とする。ライトアップもかつては行なわれていた。
- 03-2 設立後の成果と問題点：狭い敷地にできるだけ大きな施設をと考えたため、ステージの奥行きが少ない。また特に袖の部分が狭いので演劇などには無理がある。ただ、反響板がソフトな材質でやや難あるのを除けば、おそらくその形状により、ホールはアコースチック特性に優れ、適度の残響もあり、音楽には好適である。1 階席のスロープ、はもう少し傾斜があった方が舞台を見易かった筈である。何分古いので、座席の形状は快適でない。ただ、背が木製、シートがビニールであることが、硬いフロアーと共に残響を長めに保っている功績も見逃せない。音楽で使う場合、プロならマイクはいらないとの係員の言葉もうなずける。市民センターが出来てからは文化的催しの多くはそちらで行なわれるようになった。現在は当館は主として音楽の練習等に使われている。古いこと、駐車場が狭いことが利用率を低くしているかもしれない。
- 04 経営形態：瀬戸市施設。瀬戸市施設管理協会の委託管理。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 外部写真 (無) ビデオ撮影 (無)
- 05-2 設計者 (日建設計) 施工会社 (大成建設)
- 舞台工事 (三精輸送機) 照明工事 (丸茂電機)
- 音響工事 (サンセイエンジニアリング)
- 05-3 図面 (有)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a 1 設備総容量 150 KVA 負荷回路数 98 回路

- 電子クロスバー方式 プリセット 3段 60本
 フェーダー 4本
- a2 センタースポットライト (クセノン) 1kw 2台
 ホリゾントライト 上:300w 8灯 4色
 下:300w 8灯 4色
 ボーダーライト (切り替え) 1.2.列 21灯 3回路
 サスペンションライト 3列
 フロントライト 15台×2 5段×2
 (詳細は「全国ホール名鑑」1991年版 813頁参照)
- a3 その他の特色
 16mm映写機2台
- 05-4-b (音響)
- b1 調整卓 ラムサ製 16in 12out
 プロセニアムスピーカー 2基 2way JBL製
 ステージスピーカー 2基 2way JBL製
 サイド & FB スピーカー 2基 1way ボーズ製
 反響板あり。ヤマハセミコンサートピアノ 1台
- b2 音響効果 数値不明
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口14.6m×奥行8.5m)
- c3 舞台の高さ (6.4m)
- c4 袖の広さ (上手21㎡ 下手48㎡)
- 05-4-d (舞台関連)
- d3 吊り物バトン (手動)(4)本
- d4 特殊な機械設備 (オーケストラピット)
- d6 楽屋 (有)(洋2室 48㎡)
- d7 花道 (有)(2m×4.2m)
- 05-4-e1 客席数 (固定747席)
- e2 客席の形態:1階スロープ型。2階席あり
- 05-4-f その他の特色 オーケストラピットあり。
- 05-4-g 使用料金
- 平日全日 9:00 - 21:30 4万2000円
 土日祝 同 5万2000円

- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年：1959年10月竣工
総工費：不明
- 06-2 改築：無いが、新施設瀬戸市文化センター文化ホールが他の場所に新築された。
- 06-4 管理の変化：当初は瀬戸市直営。1987年4月より瀬戸市施設管理協会が維持管理。
- 07 (上演史関係)
- 07-1 上演史：利用状況は平成2年で延170件、3万9785人。当初より貸し館として運営されてきた。自主事業は1982年10月開館の瀬戸市文化センターで行なっている。
- 07-3 利用者(劇団)の傾向：現在はピアノ発表会、詩吟、民謡、日舞(2年に1回位)、カラオケ、小規模学区の3中学校の学芸会、講演会、音楽の練習(コーラス、「瀬戸第九を歌う会」、太鼓)などに使われている。演劇は昨年2件、今年1件。いずれも学校が文化祭で呼んだもので、一般の公演はほとんどない。
- 07-5 その他。情報を提供する資料：設備詳細一覧。使用状況一覧。しおり2種類。インタビュー記録：加藤氏
- 08-7 同一地区の興行環境について：瀬戸市文化センター開館後は主な催物はそちらに移行。市の施設として他に勤労会館、勤労青少年ホールがあるが、いずれも会議室で講演以外には使われていない。瀬戸市には劇場はなかったようである。映画劇場は現在邦画、洋画各1館を擁するものがあるだけで、ビデオ普及の影響はここでも顕著である。
-

[011]

- 01 瀬戸市文化センター文化ホール(瀬戸地域文化広場)
- 02-1 〒481 瀬戸市西茨町113-3
- 02-2 TEL(0561)84-1811
- 03-1 劇場設立趣旨：市民の文化・教養の向上と住民福祉の増進をはかる中心施設とするために、市政50周年記念事業として1982年10月に開館した。(アンケートより)大ホールの他に各種会議室、図書室、トレーニング室などから成るふれあいホールと美術展示ホールを別棟として持つ。美術展示ホールは5年間県のもの。間もなく5年になる。以後市施設。
- 03-2 設立後の成果と問題点：瀬戸市には市の中心部に現在もある市民会館が長い間唯一のホールであった。3年目にここも含めたかっこうになった。今では市民会館とは別に需要が多くなった。あと都市公園がある。
- 03-3 今後の抱負：市民のニーズを的確に捉えた自主事業の実施など、市民サービスのより充実をはかりたい。(アンケートより)
- 04 経営形態：瀬戸市民会館が本部で、こちらは出先機関。
- 05 (劇場形態)

- 05-1 ビデオ撮影 (有)
- 05-2 設計者 (安井建築設計) 施工会社 (大成建設)
 舞台工事 (三精輸送機) 照明工事 (松村電機)
 音響工事 (サンセイエンジニアリング)
- 05-3 図面 (有)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a1 設備総容量 500 KVA 負荷回路数 278 回路
 電子クロスバー方式
 フェーダー 100 本 プリセット 3 段
- a2 センタースポットライト (クセノン) 2 kw 3 台
 ホリゾントライト 上: 300 w 30 灯 6 色
 下: 300 w 20 灯 4 色
 ボーダーライト 3 列 21 灯 4 回路
 シーリングライト 1 列 42 灯 24 回路 7 色
 サスペンションライト 3 列。
 タワーライト 1 kw 8 台 4 基
 トーメンタルライト 1 kw 6 台 2 基
 (詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 814 頁参照)
- a3 その他の特色
 16 mm 映写機 1 台、35 mm 映写機 2 台
- 05-4-b (音響)
- b1 調整卓 ヤマハ製 24 in 16 out
 サブ ヤマハ製 16 in 4 out
 8 in 4 out
 プロセニアムスピーカー 3 基 2 way アルテック製
 ステージスピーカー 2 基 2 way アルテック製
 ウォールスピーカー 2 台 2 way TMS-4
 反響板 ヤマハ、スタインウェイフルコンサートピアノ各 1 台
 ヤマハセミコンサートピアノ 1 台、アップライトピアノ 1 台
- b2 残響時間 (空席時) 1.75 秒 (満席時) 1.58 秒
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口 20 m×奥行 15 m)
- c3 舞台の高さ (9 m)

- c 4 袖の広さ (上手 10 m² 下手 36 m²)
- 05-4-d (舞台関連)
- d 2 セリ (有) (2 m×2.7 m; 2.1 m×5.4 m)
- d 3 吊り物バトン (手動) (13) 本
- d 4 特殊な機械設備 (オーケストラピット)
- d 5 奈落 (有)
- d 6 楽屋 (有) (洋4、和1室)
- d 7 花道 (有) (2 m×7 m)
- d 8 浴室 (有)
- d 9 リハーサル室 (有) 141 m²; 63.6 m²; 38.4 m²
- 05-4-e 1 客席数 (固定 1382 + 可動 118 席 合計 1500 席)
- e 2 客席の形態: ワンスロープ型、2 階席あり
- 05-4-f その他の特色 ホール内の壁面レンガタイル。
- 05-4-g 使用料金 (下記を基に入場料割増しあり)
- | | | |
|------|------------------|----------------|
| 平日全日 | 9 : 00 - 21 : 30 | 7 万 6 千 000 円 |
| 土 | 同 | 10 万 6 千 000 円 |
| 日、祝日 | 同 | 10 万 6 千 000 円 |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年: 1982 年 10 月開館
総工費: 40 億円
- 06-2 改築: 建設以後問題点があって毎年手直しをしている。舞台は毎年 1000 万円位かけているし、音響照明に大きな手直しを行った。
- 06-4 管理の変化: 管理は文化センターがやっていて、元年から管理協会に変化。初め会館の職員を拡充して行ったが、市職員が配置替えで変わると引き継ぎが難しいため舞台管理は三光が委託管理。企画は市長広報室で、3つの施設を扱っている。文化センターは(市公務員)から5名。施設管理協会から数人(2名)、嘱託5名。施設は管理協会に委託。
- 07 (上演史関係)
- 07-2 主体的に取り組んだ企画: 毎年宝塚をやっている。
- 07-5 その他。情報を提供する資料: 条例集写し
- 08 (自主事業関係)
- 08-1 自主事業の有無 (有)
文化協会が行う。
文化センターを貸してほしいと言われて、こちらは会館を貸す。
毎年決まった額でやるが、4000 万円位の範囲内。
- 08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額 (過去 3 年間)

負担機関1 (瀬戸市) 昭和63年度(3585)万円

平成元年度(5543)万円

平成2年度(3425)万円

08-3 年間自主事業件数とその内訳

年間8-10本。最近3本。

(1988年度)

5月 ピアノの貴公子 リチャード・クレイダーマン

9月 宝塚歌劇雪組公演

10月 タンゴ・フェスティバル

11月 さだまさし

11月 こども劇場 劇団うりんこ(ガンバとかわうその冒険)

12月 テレビ公開録画(演歌まつり)

(1989年度)

4月 宝塚歌劇雪組公演

6月 大阪フィルハーモニー交響楽団(指揮朝比奈隆)

7月 石川さゆり

10月 民謡まつり

10月 杉山清貴コンサートツアー'89(HERE AND THERE)

10月 こども劇場 劇団飛行船(みにくいあひるのこ、赤ずきん)

11月 イ・ムジチ合奏団

12月 レーモン・ルフェーブル

12月 第九演奏会 名古屋フィルハーモニー(指揮 外山雄三)

2月 吉本新喜劇

3月 谷村新司

(1990年度)

4月 宝塚歌劇月組公演

5月 吉幾三

6月 劇団飛行船(王子とこじき)

9月 劇団四季(桃次郎の冒険)

10月 シュトゥットガルト放送交響楽団

1月 オルフェウス室内管弦楽団

- 08-4 自主事業の立案原則・基準：市には相談にあずかる委員会がなく当館の担当者だけで立案し決める。バランスを考えて演劇(1)、クラシック(1-2)、子供ぬいぐるみショー(1)、宝塚歌劇(1)、ニューミュージック(1)の配分になる。昨年はクラシックを2回やった。クラシック1回にして軽音楽を1回加える年もある。各年代層にアピールするように企

画する。当初はあったが、最近歌舞伎や新劇がない。

切符の売上げ収入は市の財政に入る。職員は管理と事務とで分れているが、公演当日は一緒に実施。切符は3ヶ所で売り出す。催しの案内は市の広報、市内の新聞に載せてもらう。近隣の町にポスターを郵送しているが、宣伝はやっていない。

- 08-5 自主事業と地域の連携状態：市民団体との連携は教育委員会が事務局をもち社会教育課が担当している。地元の文化団体とタイアップしている。例えば「瀬戸第九を歌う会」は1983年から一昨年まで瀬戸市の自主事業だったが、昨年から「瀬戸第九を歌う会」が瀬戸市から独立した。「第九を歌う会」市民が合唱、400名近く参加者があったが、最近はしりつばみ傾向にある。毎年9月から練習にはいる。地元の芸能団体が2、3入り、舞踊（民謡）が1団体入り、貸し館としてやっている。自主事業をやれば、ほとんど赤字である。料金は満席でトントンになるよう設定するので埋まらなないと赤字である。年間の公演全体で予算をたて、赤字が多過ぎると財政当局から指摘をうけている。宝塚は黒字だが、あとは赤字。クラシック音楽は赤字覚悟でやる。ニュー・ミュージックは満席でトントン。新劇や歌舞伎はあまりない。1985年萬屋錦之助公演『反逆児』全国公立文化巡回公演があった。自主事業は単独でやる。貸し館、ホールの稼働率は土、日曜日が中心で夏は少ない。午前、午後、夜間の3区分で貸している。舞台のついたホールはない。利用率。ここが出来て45%利用。市民会館は750席のため、当初はこちらの利用率は低かったのだが、今は100-200人でも1500席あるこちらの方を使う率が高い。瀬戸のみでなく、尾張東部は利用できる。近くの人には安く貸し、入場料をとる営業の場合は2倍の貸し料金。1500席は地元の人が使おうと思うと大きすぎるが、歌手など呼ぶと1000席は少ないという意見である。高校などが演劇鑑賞などに利用する。

- 08-7 同一地区の興行環境について：映画館現在一ヶ所

〔012〕

- 01 豊田市民文化会館（大ホール）&（小ホール）
02-1 〒471 豊田市小坂町12-100
02-2 TEL (0565) 33-7111
03-1 劇場設立趣旨：市民文化会館は「教育・文化の振興を図ることにより、市民生活にうまいと充実感を与え、市民福祉の向上をめざし……中央文化の香り高い主催事業を実施するとともに、地域文化の育成の機会を提供する」（協会要覧より）べく設置された。経過をたどれば、まず1974年、国道153号線バイパス沿いに敷地を得て小ホールが完成した。それ以前は、挙母町に現在もある中央公民館及び各公民館と、市体育館が主としてホールの役割を果たしていた。しかし、これらで全ての市民の需要に応えられた訳ではなかった。たとえば、宗教関係の催しは社会教育法の制約で公民館は利用できなかった。折から日本各

地に、次第に固定席を持ち、文化的な催しに適するホールが造られたのに呼応して、豊田市でもホールが実現した。（無論、日本経済の発展による市の財政好転がそれを可能にした。）次に市政 30 周年記念事業として、当初のマスタープランに基づき 1981 年、大ホールが完成した。ホールの他に、3ヶ国語同時通訳のできる国際会議室や大小 2 つの展示室がある。

03-2 設立後の成果と問題点：稼働率は大、小ホールとも 50% 位。利用が休日に集中していることが悩み。市内には当館のような本格的なホールが他にないため、申し込みが殺到する。平日には逆に利用は少なく、ホールの数をいたずらに増やすわけにもいかない。駐車場は 618 台分あるがまだ不足である。

04 経営形態：豊田市施設。豊田市文教施設協会の委託管理。

05 (劇場形態)

05-1 外部写真 (無) ビデオ撮影 (有)

05-2 設計者 (株)青島設計室 施工会社 (竹中・大啓建設共同体)

舞台工事 (竹中・大啓建設共同体) 照明工事 (龍電社)

音響工事 (不二音響)

05-3 図面 (有)

05-4 (設備の水準)

a 1 設備総容量 500 KVA 負荷回路数 326 回路

電子クロスバー方式

フェーダー 80 本 プリセット 3 段

a 2 センタースポットライト (クセノン) 2 kw 4 台

ホリゾントライト 上：500 w 180 灯 6 色

下：300 w 96 灯 4 色

ボーダーライト (切り替え) 4 列 × 90 灯 4 色

シーリングライト 2 列

サスペンションライト 6 列

トーマンタルライト 1 kw 6 台 1 基

タワーライト 1 kw 8 台 6 基

(詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 827 頁参照)

a 3 その他の特色

16 mm 映写機 2 台、35 mm 映写機 2 台

05-4-b (音響)

b 1 調整卓 不二音響製 24 in 16 out

サブ ヤマハ製 16 in 4 out

プロセニアムスピーカー 2 基 2 way アルテック製

ステージスピーカー 4基 2way アルテック製
 ウォールスピーカー 20台 不二音響製
 反響板ヤマハ、スタインウェイフルコンサートピアノ各1台
 ヤマハセミコンサートピアノ1台。

- b2 残響時間 2秒
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口19m×奥行18m)
- c3 舞台の高さ (9m)
- c4 袖の広さ (上手300㎡ 下手160㎡)
- 05-4-d (舞台関連)
- d2 セリ (有) (12m×3m; 7m×1.8m)
- d3 吊り物バトン (手動) (20) 本
- d4 特殊な機械設備 (スライディングステージ)
- d6 楽屋 (有) (洋4室、和3室、個室1室)
- d7 花道 (有) (12.5m×1.5m)
- d8 浴室 (有)
- d9 リハーサル室 (有) 228㎡
- 05-4-e1 客席数
(固定1878席 車椅子8席含む)
- e2 客席の形態：ワンスロープ型、階上席あり
- 05-4-g 使用料金 (入場料をとる場合、割増しあり)
- | | | |
|------|------------|----------|
| 平日全日 | 9:00-21:30 | 8万0000円 |
| 土 | 同 | 12万0000円 |
| 日、祝日 | 同 | 12万0000円 |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年：1981年7月7日開館
総工費：36億4千万円
- 07 (上演史関係)
- 07-3 利用者(劇団)の傾向：平成2年度で音楽81件(洋楽45、歌謡3、邦楽13)、舞踊24件(日舞22、洋舞2)、演劇21件、映画14件、演芸1件、大会37件、講演5件など。
- 07-5 情報を提供する資料：協会要覧、しおり、利用の手引、ホール図面、設備一覧、利用統計各種、自主事業自主事業一覧。インタビュー記録：鈴木康義氏、深尾敏彦氏、梅村隆志氏。
- 08 (自主事業関係)
- 08-1 自主事業の有無 (有)

4月1日-3月31日までの単年度決算で収支がつりあうように運営する。万一不足した時は、基本金利息、準備金を取り崩すが、それを超えて市の補正予算を組んでもらうようなことはまだない。以下は事業費年間支出総額。

負担機関1 (豊田市) 昭和63年度(1550)万円

平成元年度 (1360)万円

平成2年度 (990)万円

08-3 年間自主事業件数とその内訳

昭和50年11月、小ホールの開館以来自主事業は行っている。ホールを使ったものは現在は年2本：夏休みにこども劇場、秋に宝塚歌劇公演もしくは歌舞伎公演。これに展示室での地元作家の美術展が加わる。

(1988年度)

8月 子供劇場(7ひきのこやぎと狼)劇団飛行船

9月 歌舞伎 義経千本桜すし屋

9月 宝塚雪組公演

8月 郷土(美術)作家作品展

(1989年度)

7月 子供劇場(ブレーメンの音楽隊)劇団飛行船

9月 宝塚花組公演

11月 クラシック公演 新日本フィル(小泉和裕、花房晴美(pno))

8月-9月 郷土(美術)作家作品展

(1990年度)

7月 子供劇場(王子と乞食)劇団飛行船

9月 宝塚雪組公演

8月 郷土(美術)作家作品展

08-4 自主事業の立案原則・基準：会館員が立案。理事会の承認を得て実施。

08-5 自主事業と地域の連携状態：市として、他に社会教育課直営の事業、財団法人豊田文化協会の事業があり、文化的な催しは3本建てである。

08-6 今後の自主事業のあり方：自主事業は第3セクターの協会としての性格上、独立採算制をとっているため、収支をバランスさせることを第1にせざるをえない。従って集客力のある親子劇場と、そうでない宝塚歌劇公演などを組み合わせている。できれば、能、狂言などの古典芸能を組み込むなどの試みを、多少採算性が悪くても実施したい。これからはやはり特色を出していかなければならないと考えている。

08-7 同一地区の興行環境について：親子劇場の活動は盛んで年10回程当館で公演している。名古屋にレインボーホールができて以来、名古屋の興行師により行なわれていた大型の商業公演が減ったようである。それまでは有名歌手など、演目によっては入場者は名古屋市

及び愛知県全域から集まっていた。また平成2年まで豊田市内の3興行師も当館で興行していたが、3年度からはしていない。映画館は3業者8館がある。かつては畳敷きの2劇場（昭和劇場、挙母劇場）があった。

（小ホール）

（上記「大ホール」の項参照）

05-4 （設備の水準）

05-4-a （照明）

- a1 設備総容量 225 KVA 負荷回路数 225 回路
クロスバー方式
フェーダー 60 本 プリセット 3 段
- a2 センタースポットライト（クセノン）1 kw 2 台
ホリゾントライト 上：500 w 48 灯 4 色
下：300 w 48 灯 4 色
ボーダーライト 1 列 60 灯 4 色
シーリングライト 1 列 28 台 15 回路
フロントライト（上下手）1 kw×10 台×2
サスペンションライト 3 列
（詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 828 頁参照）
- a3 その他の特色
16 mm 映写機 2 台

05-4-b （音響）

- b1 調整卓 ヤマハ製 16 in 4 out
プロセニアムスピーカー 1 基 2 way JBL 製
ステージスピーカー 1 基 2 way アルテック製
反響板 ヤマハセミコンサートピアノ 2 台
- b2 音響効果 数値不明

05-4-c （舞台形態）

- c1 固定型
- c2 舞台の広さ（間口 14 m×奥行 10 m）
- c3 舞台の高さ（7.5 m）
- c4 袖の広さ（上手 60 m² 下手 40 m²）

05-4-d （舞台関連）

- d2 セリの昇降の有無（有）（6.2 m×2.1 m）
- d3 吊り物バトン（手動）（4）本

- d6 楽屋 (有) 室 (洋3室)
- 05-4-e1 客席数 (固定 436 席 移動 72 席)
- e2 客席の形態：ワンスロープ型
- 05-4-g 使用料金 (入場料をとる場合、割増しあり)
- | | | |
|-------|------------|----------|
| 平日 全日 | 9:00-21:30 | 2万1千円 |
| 土 | 同 | 3万1千500円 |
| 日、祝日 | 同 | 3万1千500円 |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年：1975年11月開館
総工費：7億円
- 06-2 改築：開館以来12年経ったところで音響、照明改善工事を実施。平成4年には空調設備の改装を実施の予定。

〔補遺1〕

- 01 豊田市中心公民館
- 02-1 〒471 豊田市挙母町3-59
- 03-1 劇場設立趣旨：公民館として全市民を対象にした講演会・講座を実施している。ホールは講演会、各種大会、アマチュアの発表の場として使われている。(同館しおりより) ワンスロープ形式、固定704席のホールの他、集会室、会議室、研修室、視聴覚用のライブラリー、スタジオがある。またここには(財)豊田文化協会の事務局があり、市民総合文化祭、市民ファミリー劇場、豊田ジョイントコンサートなど多分野の事業を企画、実施している。公民館は他に20館ある。

〔補遺2&3〕

この他に1972年開館で、590席と200席のホール、体育施設、会議室、宿泊設備を持つ愛知県豊田勤労福祉会館がある。

また1985年開館でプラネタリウム、サイエンスホールなどを併設する豊田市産業文化センターには、固定240席の小ホールがある。これは舞台構造上、主として講演会、研修などに使われる。他に宴会などに使われるフラットフロアー、移動240席の多目的ホールがある。

市内各地には4つのコミュニティセンターがあり、発表会などのできる舞台付きフラットフロアーの会議室がある。

[013]

01 刈谷市民会館（アイリスホール）

02-1 〒448 刈谷市大手町2-25

02-2 TEL (0566) 21-2071

03-1 劇場設立趣旨：1967年1月の市条例に基づき同年12月開館。当時の市幹部に文化的催し物に熱心な人が2名あり、当館の建設を進めるのに貢献したとのことである。

03-2 設立後の成果と問題点：2本の道路に挟まれた土地に建てられたのでホール形状はやや横広がりである。また舞台後部の楽屋などのスペースが十分でない。2階にレストランがあるので、ホールの高さに一部制約がある。他の都市に比較し早く出来ただけに古さが目立つようになってきた。

03-3 今後の抱負：将来2000席位の大きなホールを造る構想がある。

04 経営形態：市の直営。市民部市民会館事務課所轄。

05 (劇場形態)

05-1 ビデオ撮影 (有)

05-2 設計者 (竹中工務店) 施工会社 (竹中工務店)

舞台工事 (森平舞台機構) 照明工事 (丸茂電機)

音響工事 (不二音響)

05-3 図面 (有)

05-4 (設備の水準)

05-4-a (照明)

a1 設備総容量 227 KVA 負荷回路数 167 回路

電子クロスバー方式

フェーダー 80 本 プリセット 3 段

a2 センタースポットライト (クセノン) 2 kw 2 台

ホリゾントライト 上：300 w 72 灯 4 色

下：300 w 48 灯 4 色

ボーダーライト (切り替え) 2 列 各 96 灯 4 色

シーリングライト 1 列 36 台

サスペンションライト 3 列

詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 806 頁参照)

a3 その他の特色

16 mm 映写機 2 台、35 mm 映写機 2 台

05-4-b (音響)

b1 調整卓 不二音響製 20 in 6 out

サブ 不二音響製 8 in 2 out

サブ ヤマハ製 16 in 4 out
 プロセニアムスピーカー 3 基 2 way アルテック製
 ステージスピーカー 2 基 3 way アルテック製

反響板あり。

ヤマハフルコンサートピアノ 1 台

ヤマハセミコンサートピアノ 1 台

- b2 音響効果 残響 1.7 秒
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口 21 m×奥行 10 m)
- c3 舞台の高さ (8 m)
- c4 袖の広さ (上手 75 m² 下手 75 m²)
- 05-4-d (舞台関連)
- d2 セリの昇降 (有) (10 m×3 m; 2 m×1.8 m)
- d3 吊り物バトン (有) (電動 2 本 手動 11 本)
- d4 特殊な機械設備 オーケストラピット (張り出し)
- d5 奈落 (有)
- d6 楽屋 (有) (洋 1 室 29 m 和 4 室各 50 畳)
- d7 花道 (有) (舞台両側に 2 m×6 m)
- d8 浴室 (有)
- 05-4-e1 客席数 (固定 1216 席 可動 192 席)
- e2 客席の形態：ワンスロープ型
- 05-4-g 使用料金 (下記を基に入場料割増しあり)
- | | | |
|-------|------------|---------------------|
| 平日 全日 | 9:00-21:00 | 7 万 860 円 (消費税込) |
| 土 | 同 | 8 万 1 千 370 円 (同) |
| 日、祝日 | 同 | 8 万 4 千 150 円 (同) |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年：1965 年 12 月開館
 総工費：不明
- 06-2 改築：座席入れ替え、照明、音響の改善を各 1 回実施。照明は今年 2 回目の改善を行なう。
 昭和 57 年に披露宴会場を増築。
- 06-4 管理の変化：当初は総務部市民課が担当。舞台関係は職員 2 名、(株)三光の常駐員 2 名、0 B1 名で担当。音響、照明は(株)三光が担当。
- 07 (上演史関係)
- 07-3 利用者 (劇団) の傾向：1990 年度で 343 件、111.851 人が利用。文化催事では、件数の多い

順に純音楽 87、軽音楽 43、講演会 24、演劇 16、映画 13、邦舞 11、洋舞 9、リハーサル 90
であった。

- 07-5 その他。情報を提供する資料：ホール各種図面、昭和 55 年-自主事業、
平成 2、3 年自主事業実施状況。インタビュー記録：酒井宣克氏、瀬戸登美夫氏
- 08 (自主事業関係)
- 08-1 自主事業の有無 (有)
- 08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額 (過去 3 年間)
負担機関 1 (刈谷市) 昭和 63 年度 (2835) 万円
平成元年度 (3234) 万円
平成 2 年度 (4446) 万円
- 08-3 年間自主事業件数とその内訳
平成 3 年度 11 件 (有料 6 無料 5)
平成 2 年度 12 件 (有料 6 無料 6)
平成元年度 10 件 (有料 5 無料 5)
特徴としては、毎年日本音楽コンクール受賞記念演奏会とオーケストラコンサートがある
こと、青少年芸術劇場として演劇、オペラがほぼ毎年あることなどである。

(1988 年度)

- 4 月 第 56 回日本音楽コンクール受賞記念演奏会
4 月 第 22 回会館さくらまつり (お笑い寄席 三遊亭小遊三)
6 月 ジャンーマルク・ルイサダピアノリサイタル
6 月 ミュージカル劇団四季ソング & ダンス
7 月 子ども映画大会 (ドン松五郎の冒険、トムとジェリー)
8 月 第 21 回会館納涼の夕べカラオケ大会 (ゲスト そやま裕美、水沢京子)
9 月 文化講演会 (はらたいら「人生落書帳」)
11 月 荻野目洋子コンサート
12 月 忠臣蔵
3 月 親子ぬいぐるみ劇場 (魔法使いの弟子)

(1989 年度)

- 4 月 第 57 回日本音楽コンクール受賞記念演奏会
4 月 第 23 回会館さくらまつり (お笑い寄席 三遊亭円丈)
7 月 東京交響楽団演奏会
7 月 子ども映画大会 (エンドア、それゆけアンパンマン)
8 月 第 22 回会館納涼の夕べカラオケ大会 (ゲスト あおいみねこ)
9 月 宝塚歌劇花組公演
10 月 石川さゆりショー

12月 文化講演会（中島公司「なんでもするどく社会学」）

2月 ミュージカル「むかしむかしゾウがきた」

3月 親子ぬいぐるみ劇場（シンデレラ）

（1990年度）

4月 第58回日本音楽コンクール受賞記念演奏会

4月 第24回会館さくらまつり（お笑い寄席 林家こん平）

5月 中山美穂スプリングコンサート

5月 刈谷市制40周年記念 NHK交響楽団演奏会

7月 刈谷市制40周年記念 市民の歌コンサート（ボニージャックス、川崎千恵子、他）

8月 ウィーンの森少年合唱団演奏会

8月 青少年芸術劇場（バレエ白鳥の湖）

8月 第23回会館納涼の夕べ 市民カラオケ大会（ゲスト 朝日奈洋子、梓夕子）

9月 子ども映画劇場（アンパンマン、他）

11月 松山千春コンサート

12月 刈谷市制40周年記念 ベートーヴェン第九演奏会

3月 親子ぬいぐるみ劇場（アルプスの少女ハイジ）

- 08-4 自主事業の立案原則・基準：会館が主体となり地域住民のために、独自の文化事業を企画し、文化の振興や住民の文化意識の高揚を図り、地域の活性化と住民の生活に潤いを与えること。（アンケートより）子供から老人まで幅広い市民に楽しんでもらうこと。
- 08-5 自主事業と地域の連携状態：地域住民の芸術文化の関心は拡大多様化し、能力レベルの向上が著しい。会館が適切な機会を用意すれば、才能の開花が期待できる。（アンケートより）
- 08-6 今後の自主事業のあり方：地域住民の文化ニーズを的確に把握し、自主企画についても積極的に検討し会館としての個性、独自性を発揮する必要がある。（アンケートより）
- 08-7 同一地区の興行環境について：刈谷市は16世紀以来、城下町として約40カ村の中心をなす独立した小都市であったが、明治21年の東海道線、大正3年現在の名鉄線の開通によりかえって名古屋の勢力範囲に組み込まれ、もっぱら近隣の消費経済を賄う地方商業都市と化した。しかし大正-昭和始めにかけて豊田系の大企業を誘致し、新興工業都市としても発展した。昭和25年に市となり、現在人口は約12万人。市の北端には愛知教育大学がある。クラシック音楽が盛んで2中学にオーケストラがあり、その水準も非常に高い。企業にも吹奏楽団があり、「第9を歌う会」から生まれた刈谷混声合唱団も活躍している。社会教育センターに事務局を置く文化協会があり各種文化団体を代表している。市内には5館の映画館がある。うち1館は元芝居小屋であった。市民は隣接の知立市の映画館にもでかける。

[014]

01 愛知県刈谷勤労福祉会館

02-1 〒448 刈谷市井ヶ谷町松ヶ崎 6-26

02-2 TEL (0566) 36-0112

03-1 劇場設立趣旨：「衣浦東部地域の勤労者を始め広く県民の文化・教養・体育の向上と、併せて余暇の健全な場として……愛知県と雇用促進事業団が建設した」総合福祉施設である。（同館「事業概要」より）敷地は刈谷市の北端部、知立市や三好町に近い所にある。勤労福祉会館所属として大ホール棟と宿泊・体育棟がある。また勤労者総合福祉センター所属として多目的ホールを含む会議・研修棟がある。市の施設であるテニスコートや温水プールもある。多目的ホールは移動席 165（椅子のみ使用時 300）の講堂で、開閉式のステージやピアノなどを備えている。

04 経営形態：愛知県施設。財団法人愛知県労働協会の委託管理。

05 （劇場形態）

05-1 ビデオ撮影（有）

05-2 設計者（㈱安井建築設計） 施工会社（熊谷、角文建設共同体）

05-3 図面 （無）

05-4 （設備の水準）

05-4-a （照明）

a 1 設備総容量 VA 負荷回路数 回路
サイリスタ調光装置 3 KW 80 回路 4 KW 12 回路

a 2 センタースポットライト（クセノン） 2 台
ホリゾントライト上下 1 列
ボーダーライト 2 列
サスペンションライト 2 列
シーリングライト 1 列
トーマンタルタワーライト 8 台

a 3 その他の特色
16 mm 映写機 1 台

05-4-b （音響）

b 1 音響設備 詳細不明
反響板 ヤマハグランドピアノ 1 台

b 2 音響効果 数値不明

05-4-c （舞台形態）

c 1 固定型

c 2 舞台の広さ（間口 14.4 m×奥行 9.40 m）

- c 3 舞台の高さ (7 m)
- c 4 袖の広さ (数値不明)
- 05-4-d (舞台関連)
 - d 3 吊り物バトン (有) (4 本)
 - d 6 楽屋 (有) (洋 2 室 畳 3 畳付き)
 - d 7 花道 (有) (舞台片側)
 - d 8 浴室 (有)
- 05-4-e 1 客席数 (固定 502 席 車椅子専用 10 席)
- e 2 客席の形態：ワンスロープ型
その他 (舞台から客席に向かって開いた扇型のホール)
- 05-4-g 使用料金 (入場料が 3000 円を超える場合 1.5 倍、
1000 - 3000 円の場合 1.2 倍)

平日	8 : 30 - 21 : 30	2 万 7 千 100 円
土日祝	同	2 万 7 千 100 円
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年：1990 年 2 月開館
総工費：勤労福祉会館 約 23 億円
勤労者総合福祉センター 約 5 億円
- 07 (上演史関係)
- 07-5 その他。情報を提供する資料：事業概要 (2 種)、しおり、インタビュー記録：岡本忠厚氏

〔015〕

- 01 岡崎市民会館大ホール
- 02-1 〒 444 岡崎市六供町字出崎 15-1
- 02-2 TEL (0564) 21-9121
- 03-1 劇場設立趣旨：市政 50 周年を記念して 1967 年 6 月竣工。市の中心部高台に位置する。大ホールその他集会室、結婚式場等がある。さらに 1987 年 12 月、市政 70 周年記念市民会館整備事業の一環としてリハーサル棟、立体駐車場と甲山会館 (小ホール) を完成。市民文化の向上に寄与している。市の中心部という便利な地を選び、用地の狭さにも関わらず需要の高いリハーサル棟を設け、駐車場も立体化で対応している。
- 03-2 設立後の成果と問題点：駐車場はなお不足との市民の声がある。
- 04 経営形態：岡崎市施設。市役所市民部自治課が管理運営。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 ビデオ撮影 (有)

- 05-2 設計者 (日建設計) 施工会社 (飛島建設)
 舞台工事 (三精輸送機) 照明工事 (丸茂電機)
 音響工事 (不二音響)
- 05-3 図面 (有)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a1 設備総容量 250 KVA 148 回路
 クロスバー方式 フェーダー 60 本 プリセット 3 段
- a2 センタースポットライト (クセノン) 2 kw 2 台
 ホリゾントライト 上: 300 w 72 灯 4 色
 下: 300 w 48 灯 4 色
 ボーダーライト 2 列 各 20 灯 4 色
 シーリングライト 1 列 24 台 10 回路 4 色
 サスペンションライト 3 列
 (詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 798 頁参照)
- a3 16 mm 映写機 2 台
- 05-4-b (音響)
- b1 調整卓 不二音響製 24 in 20 out
 プロセニアムスピーカー 2 基 2 way アルテック製
 ステージスピーカー 2 台 アルテック製
 ウォールスピーカー 8 台 松下製
 反響板あり。 ヤマハフルコンサート 2 台
 ヤマハセミコンサート 1 台
- b2 音響効果 残響時間 1.4 秒
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口 18 m×奥行 11.6 m)
- c3 舞台の高さ (8 m)
- c4 袖の広さ (上手 80 m² 下手 50 m²)
- 05-4-d (舞台関連)
- d2 セリの昇降 (有) (1.2 m×12 m; 1.8 m×12 m)
- d3 吊り物バトン (手動) (8) 本
- d4 特殊な機械設備 (有) (オーケストラピット 張り出し)
- d5 奈落 (有) (深さ 2.3 m)
- d6 楽屋 (有) (3 室)

- d7 花道 (有) (2 m×6 m)
- d8 浴室 (有)
- d9 稽古場またはリハーサル室 (有) (洋室5室)
- 05-4-e1 客席数 (1F:固定1367席 車椅子3席
2F:固定226席 計1596席)
- e2 客席の形態:階上席あり
- 05-4-f その他の特色 六角形の平面形状をしている。
- 05-4-g 使用料金 (入場料1500円以上の場合2倍、市民以外1.5倍)
- | | | |
|-----|------------|----------|
| 平日 | 9:00-21:00 | 8万1千680円 |
| 土曜 | 同 | 9万4千970円 |
| 日・祝 | | 10万730円 |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年:1967年6月開館
総工費:4億2千万円
- 06-2 改築:1987年7月 リハーサル棟開館(1億8千万円)
1987年11月 立体駐車場新設(2億1千万円)
- 07 (上演史関係)
- 07-3 利用者(劇団)の傾向:平成1年度集計では音楽会が1番多く、次いで演劇、映画、邦舞、邦楽、洋舞、演芸など。各種大会、講演も多い。稼働率は高く、土、日、休日は1年前の予約受付時にすぐふさがる。
- 07-5 その他。参考資料:利用状況明細、ホール図面、設備明細、条例。インタビュー記録:本多氏、杉田氏
- 08 (自主事業関係)
- 08-1 自主事業の有無(無) 開館当初から貸し館として運営。
- 08-7 同一地区の興行環境について:建設は県内では早い方である。収入に対し経費は3倍ほどかかるが、市直営なので収支を考えず、市民の文化向上に役立てている。建設後、次の文化団体が設立された。岡崎音楽友の会、岡崎演劇鑑賞会、岡崎舞踊協会、岡崎邦楽協会、岡崎フィルハーモニー、岡崎吹奏楽団、岡崎おやこ劇場。労音、労演などもある。会館の建設が文化活動を活性化させたと言えるであろう。この他岡崎城内に木造銅板葺きの屋外式能楽堂、300人用フラットフロアのホールを持つ岡崎市勤労文化センター(市所有)がある。映画館は10館。

(小ホール甲山会館)

- 02-1 岡崎市民会館に同じ
- 02-2 Ⅲ 同上

- 03-1 劇場設立趣旨：大ホールの完成後、昭和 43 年 3 月敷地内にあった旧学校講堂施設（同名）の所管を管財課から引き継いだ。改装のうえ小ホールとして運営していたが、市政 70 周年記念事業として 1987 年 12 月、リハーサル棟、立体駐車場と併せ新築オープンした。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 ビデオ撮影あり。
- 05-2 設計者 (中建設計) 施工会社 (村井建設)
 舞台工事 (三精輸送機) 照明工事 (丸茂電機)
 音響工事 (不二音響)
- 05-3 図面あり。
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a1 設備総容量
 サイリスタ方式 サイリスタ調光機 64 台
- a2 シーリングスポットライト 1 kw 16 台他
 ホリゾントライト (上下)
 ボーダーライト 2 列
 サスペンションライト 2 列
- a3 16 mm 映写機 1 台
- 05-4-b (音響)
- b1 調整卓 不二音響製 16 in 12 out
 プロセニアムスピーカー 2 基 2 way エレクトロヴォイス製
 ステージスピーカー 2 台 フォステクス製
 サイドスピーカー 2 台 エレクトロヴォイス製
- b1 反響板あり。ヤマハセミコンサートピアノ 1 台
- b2 音響効果 残響時間
- 05-4-c (舞台形態)
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口 10 m×奥行 8 m)
- c3 舞台の高さ (5.5 m)
- c4 袖の広さ (数値不明)
- 05-4-d (舞台関連)
- d6 控え室あり。 (有) (2 室)
- d8 シャワー室または浴室 (有) 但し別棟
- d9 稽古場またはリハーサル室 (有) 但し別棟
- 05-4-e1 客席数 (210 ～ 300 席：電動観覧席 105 席。210 席は机使用時)

- e2 客席の形態：フラットフロア
- 05-4-g 使用料金（入場料 1500 円以上の場合 2 倍、市民以外 1.5 倍）
- | | | |
|-----|------------|--------------|
| 平日 | 9：00-21：00 | 3 万 180 円 |
| 土曜 | 同 | 3 万 5 千 20 円 |
| 日・祝 | 同 | 3 万 7 千 80 円 |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年：1987 年 12 月
総工費：5 億 7 千万円
- 06-3 前身：同名の旧岡崎高女講堂を同じ敷地内の別位置に新築したもの。
- 06-4 管理の変化：管財課から市民課へ。

〔016〕

- 01 岡崎市せきれいホール
- 02-1 〒444 岡崎市朝日町 3-36-5
- 02-2 TEL (0564) - 25-0511
- 03-1 「夢とロマンのあるまちづくり」を掲げる市が「心のふれあいの場として、また芸術文化の創造と育成の場として」特に音楽、演劇専用ホールとして旧愛知県岡崎勤労福祉会館を改装したもの。
- 04 経営形態：岡崎市施設。岡崎市せきれいホール管理協会が管理運営。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 ビデオ撮影 (有)
- 05-2 設計者 (伊藤建築設計事務所) 施工会社 (小原建設)
舞台工事 (森平舞台機構) 照明工事 (丸茂電気)
音響工事 (不二音響)
- 05-3 図面 (無)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a1 設備総容量 100 KVA 122 回路
クロスバー方式 フェーダー 20 + 24 本プリセット 3 段
強電パッチング方式
調光ユニット 3 kw 112 台 プリセット 3 段
- a2 センタースポットライト (クセノン) 1 kw 2 台
ホリゾントライト 上： 200 w 21 灯 3 色
下： 100 w 28 灯 3 色

ボーダーライト 1列 63灯 3色
 シーリングライト 1列 1kw 16台 8回路
 サスペンションライト 3列

(詳細は「全国ホール名鑑」1991年版 796頁参照)

a3 16mm映写機 1台

05-4-b (音響)

b1 調整卓 不二音響製 16in 6out

サブ 不二音響製 6in 2out

プロセニアムスピーカー 4基 2way

ステージスピーカー 1基 3way

反響板あり。ヤマハフルコンサート 1台

b2 音響効果 数値不明

05-4-c (舞台形態)

c1 固定型

c2 舞台の広さ (間口14m×奥行9m)

c3 舞台の高さ (6.5m)

c4 袖の広さ (上手 22㎡ 下手 36㎡)

05-4-d (舞台関連)

d3 吊り物バトン (電動2本 手動3本)

d6 楽屋 (有) (3室)

d7 花道 (有)

05-4-e1 客席数 (固定席500席)

e2 客席の形態：ワンスロープ型

05-4-g 使用料金 (入場料1500円以上の場合2倍、市民以外1.5倍)

平日 9:00-21:30 4万1千820円

土曜 同 4万8千620円

日・祝 同 5万1千500円

06 (劇場の歴史)

06-1 建築年：1961年 (前身の勤労福祉会館)

06-2 改築：1983年 (当ホールとして)

07 (上演史関係)

07-1 上演史：89年4月-90年3月についてみると、件数で利用率40.1%。利用別では音楽会117件、講演82件、邦楽63件、演劇43件、邦舞28件各種大会38件等である。

[017]

01 岡崎市竜美丘会館

02-1 〒444 岡崎市東明大寺町5-1

02-2 TEL (0564) 24-3951

03-1 劇場設立趣旨：市民の集会その他の催しの場として設立。

04 経営形態：岡崎市施設。岡崎市竜美丘会館管理協会が管理運営。

05 舞台形態

05-1 ビデオ撮影（有）

05-2 施工会社 （小原建設）

05-4 （設備の水準）

a1 設備総容量 120 KVA 90 回路

クロスバー方式 フェーダー 30 本 プリセット 3 段

強電パッチング方式 調光ユニット 60 A 1 台

プリセット 3 段

a2 センタースポットライト（クセノン）1kw 2 台

ホリゾントライト 上： 200 w 18 灯 4 色

下： 200 w 18 灯 4 色

ボーダーライト 2 列 切り替え 1 列当り 18 灯 3 色

シーリングライト 1kw 24 台 12 回路

（詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 797 頁参照）

05-4-b （音響）

b1 調整卓 HYFAX 製 10 in 4 out

プロセニアムスピーカー 2 基 アルテック製

ウォールスピーカー 2 台 アルテック製

反響板あり。ヤマハフルコンサートピアノ 1 台

05-4-c （舞台形態）

c1 固定型

c2 舞台の広さ（間口 16 m×奥行 8.5 m）

c3 舞台の高さ（8 m）

c4 袖の広さ（上手 60 m² 下手 19 m²）

05-4-d （舞台関連）

d3 吊り物バトン （電動 手動）（各 1、4）本

d6 楽屋 （有）

05-4-e1 客席数（1008 席：2 階固定席 188、1 階移動椅子席 820 席 但し通常は椅子席 200 席）

- e 2 客席の形態：階上席あるフラットフロア
- 05-4-g 使用料金（入場料 1500 円以上の場合 2 倍、市民以外 1.5 倍）
- | | | |
|-----|------------|---------------|
| 平日 | 9：00-21：30 | 6 万 1 千 180 円 |
| 土曜 | 同 | 7 万 1 千 070 円 |
| 日・祝 | 同 | 7 万 5 千 400 円 |
- 06 （劇場の歴史）
- 06-1 建築年：1979 年 4 月
- 07 （上演史関係）
- 07-3 利用者（劇団）の傾向：1989 年度での利用は展示販売 68%、会議 24%、芸能 1.3% である。芸能は件数では 9 件で、87、88 年度の 80 件、42 件に比べ減ってきている。87 年に市民会館のリハーサル棟、駐車場新設が影響していると思われる。
- 07-5 その他。情報を提供する資料：しおり、条例、稼働率表、利用案内。インタビュー記録：山本浩康氏
- 08 （自主事業関係）
- 08-1 自主事業の有無（無）



〔018〕

- 01 愛知県岡崎勤労福祉会館
- 02-1 〒444 岡崎市上地 3-12-1
- 02-2 TEL (0564) 53-1151
- 03-1 劇場設立趣旨：岡崎・額田地域の勤労者を始め、広く県民の文化教養及び体育の向上と、余暇の健全な活用場として愛知県により設立。各種会議室、宿泊施設、体育館、テニスコート等を持つ複合施設。小ホールあり。
- 03-2 設立後の成果と問題点：市の中心から外れているため、自家用車を利用する人が多く、駐車場（3 箇所）が催物がある都度満車になってしまう。
- 04 経営形態：愛知県施設。愛知県労働協会の委託管理。
- 05 （劇場形態）
- 05-1 ビデオ撮影（有）
- 05-2 設計者（東海設計事務所） 施工会社（小原、三和共同企業）
- 05-3 図面有り。
- 05-4 （設備の水準）
- 05-4-a （照明）
- a 1 設備総容量 150 KVA
- 強電パッチング方式 調光方式 6 kw 40 回路

プリセット 3 段

a 2 センタースポットライト (クセノン) 1 kw 2 台

ホリゾントライト 上: 300 w 48 灯 4 色

下: 200 w 81 灯 4 色

ボーダーライト 1 列 72 灯 4 色

シーリングライト 1 列 1 kw 16 台 8 回路

サスペンションライト 2 列 各 12 回路

トーメンタルライト 2 基 1 kw 8 台

(詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 780 頁参照)

a 3 16 mm 映写機 1 台

05-4-b (音響)

b 1 音響設備 反響板 ヤマハセミコンサートピアノ 1 台

b 2 音響効果

05-4-c (舞台形態) 多目的ホール

c 1 固定型

c 2 舞台の広さ (間口 16.2 m × 奥行 8.5 m)

c 3 舞台の高さ (7 m)

c 4 袖の広さ (上手 24 m² 下手 64 m²)

05-4-d (舞台関連)

d 3 吊り物バトン (手動) (5) 本

d 6 楽屋 (有) (2 室) (控え室 2 室有り)

d 7 花道 (有) (1 m × 5 m 下手側のみ)

d 8 シャワー室 (有)

リハーサル室 (有) (44 m²)

05-4-e 1 客席数 (固定 800 席うち移動可能席 16 席)

e 2 客席の形態: ワンスロープ型

05-4-g 使用料金

平日 8:30-21:30 6 万 3 千 400 円

土日祝日 同 7 万 9 千 200 円

06 (劇場の歴史)

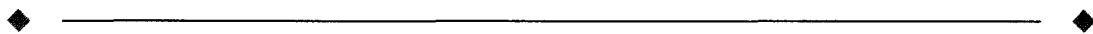
06-1 建築年: 1983 年 1 月開館

総工費: 約 29 億円

06-3 前身: 愛知県岡崎勤労福祉会館として市役所近くにあった。現在のせきれいホールになっている。

07 (上演史関係)

- 07-3 利用者の傾向：演劇、音楽、舞踊、講演、及び労働団体の大会等に利用されている。利用率は平成1年度大ホール 35.6%、小ホール 70.1%。
- 07-5 その他。情報を提供する資料：管理規則、しおり、事業概要。インタビュー記録：桑原憲明氏



[019]

- 01 半田市福祉文化会館（雁宿ホール）
- 02-1 〒475 愛知県半田市雁宿町1-22-1
- 02-2 TEL (0569) 23-7331
- 03-1 劇場設立趣旨：半田市制50周年記念事業。文化会館、中央公民館、福祉センターの3つからなる複合施設。文化会館ホールは芸術文化の創造・育成の場として、中央公民館は各地区公民館の中心としての役割を持ち、生涯学習や文化活動の場として、福祉センターは身体障害者、老人、母子家庭の人々皆さんのための施設としての機能を持つ。
- 03-2 設立後の成果と問題点：駐車場が非常に狭いので車での来場を断わっている。平成4年会館裏手に市営駐車場が完成する予定。
- 03-3 今後の抱負：自主事業については、人気の高い公演は良いが、クラシックやなじみの無い演劇などでもより多くの人を集める努力をしたい。
- 04 経営形態：文化会館部分には大ホール、練習室があり、中央公民館部分には講堂、会議室があり、福祉センター部分には老人・身体障害者の為の施設がある。半田市施設管理協会が中央公民館の管理と他の2施設の部屋の貸出を行い、公民館職員が中央公民館を、社会福祉協議会が福祉センターを運営している。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 外部写真 (無) ビデオ撮影 (有)
- 05-2 設計者 (浦野設計) 施工会社 (鴻池・七番共同体)
- 舞台工事 (三精工事サービス) 照明工事 (松下電工)
- 音響設計 (浦野設計、日本楽器協力、NHK エンジニアリングサービス 技術指導)
- 音響工事 (日本ビクター)
- 05-3 図面 (有)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a1 設備総容量 700 KVA 負荷回路数 328 回路
- クロスバー方式 サイリスタ調光装置 調光 328 回路
- a2 センタースポットライト (クセノン) 2kw 2台
- ホリゾントライト 上：500w 128灯

下：300 w 88 灯

ボーダーライト（4列）、サスペンションライト（5列）

（詳細は「全国ホール名鑑」1991年版 842頁参照）

a 3 16 mm 映写機 1 台、35 mm 映写機 2 台

05-4-b （音響）

b 1 調整卓 日本ビクター製 24 in 8 out

サブ ローランド製 8 in 4 out

サウンドクラフト製 16 in 6 out

プロセニアムスピーカー 1 基 3 way アルテック製

ステージスピーカー アルテック製

ウォールスピーカー 2 台 アルテック製

反響板 ヤマハフルコンサートピアノ 1 台、ヤマハセミコンサートピアノ 1 台

b 2 音響効果 残響時間（幕のみ）1.3 ～ 1.45 秒。

（反響板設置）1.8 ～ 2.0 秒。

05-4-c （舞台形態）

c 1 固定型

c 2 舞台の広さ（間口 20 m × 奥行 19.4 m）

c 3 舞台の高さ（9.5 ～ 11.8 m）

c 4 袖の広さ（上手 152 m² 下手 175 m²）

05-4-d （舞台関連）

d 2 セリの昇降（有）

d 3 吊り物バトン（手動）（14）本

d 5 奈落（有）

d 6 楽屋（有）

d 7 花道（有）（但し、両袖前の小さなもの）

d 8 シャワー室または浴室（有）

d 9 稽古場またはリハーサル室（有）

05-4-e 1 客席数（1300 席及び車椅子席 4、親子観覧室 5 席）

e 2 客席の形態：ワンスロープ型

05-4-f その他の特色 オーケストラピット有り

05-4-g 使用料金

平日全日 8：30 ～ 21：30 7 万 0000 円

土日祝 同 8 万 7 千 500 円

（詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版参照）

06 （劇場の歴史）

- 06-1 建築年：1988 年 1 月（開館）
総工費：37 億 5 千万円
- 06-3 前身：市民ホールが別の場所に現存。ステージ付き、移動席。現在は主に展示会に使われている。
- 06-4 管理の変化無し
- 07-2 主体的に呼んだ劇団、主体的に取り組んだ企画：宝塚歌劇団花組、雪組。しゃぼん玉座（小沢昭一ひとり芝居）上海京劇、劇団飛行船
- 07-5 情報を提供する資料：しおり 4 種、自主事業実施状況 インタビュー記録：榊原学氏
- 08-1 自主事業の有無 （有）
- 08-2 自主事業費の負担機関その年間支出総額（過去 3 年間）
負担機関 1 （半田市）昭和 63 年度（ 1950）万円
平成元年度（ 2140）万円
平成 2 年度（ 3480）万円
負担機関 1 （半田市）昭和 63 年度（補助金 500）万円
平成元年度（同 700）万円
平成 2 年度（同 500）万円
- 08-3 年間自主事業件数とその内訳
63 年度 5 件 元年度 6 件 2 年度 7 件 3 年度 7 件
(1988 年度)
6 月 ウィーン室内管弦楽団
8 月 ハウンドドッグ コンサート
9 月 小林幸子 オンステージ
11 月 上海京劇
11 月 児童劇 「7 匹のこやぎと狼」
(1989 年度)
9 月 宝塚歌劇花組公演（2 回）
11 月 角松敏生コンサート
11 月 フランス国立カンヌ管弦楽団
12 月 クリスマス・ジョイントコンサート
2 月 市民による第 9 をうたう会
2 月 桂米朝・枝雀おやこ会
(1990 年度)
6 月 児童劇「王子と乞食」（2 回）
7 月 石川さゆり オン・ステージ（2 回）
9 月 宝塚歌劇雪組公演（2 回）

- 9月 ラベック姉妹 ピアノ・デュオ
- 11月 小沢昭一 一人芝居
- 12月 イルカ クリスマス・コンサート
- 3月 ダーク・ダックス コンサート
- 08-4 自主事業の立案原則・基準：市民が楽しめるものを主に自主事業の担当者が企画し、管理協会及び市議会の承認を受ける。
- 08-7 同一地区の興行環境について：観衆は市民が中心だが隣の阿久比町、武豊町からの人も多い。また、知多半島南部、美浜町、南知多町からの人も多い。市内には県の勤労福祉会館（約600席）がある。

〔020〕

- 01 愛知県半田勤労福祉会館
- 02-1 〒475 半田市東洋町1-18
- 02-2 TEL (0569) 23-2255
- 03-1 劇場設立趣旨：知多地域の勤労者を始め、広く県民の文化・教養の向上と健康の増進をはかれるよう作られた。
- 03-2 設立後の成果と問題点：1978年6月1日開設。その後5年間は当時知多半島唯一のホールであった講堂を始め、当館の各施設とも利用は盛況であった。その後知多半島に類似の施設が多数オープンし、利用率は年々低下してきた。現在の利用率は40-42%である。他の施設に圧迫を加えず、いかにして利用度を上げるかが今後の課題。
- 03-3 今後の抱負：利用率の増加。現在は新設の半田市市福祉文化会館（雁宿ホール）に利用が集中しているが、音響、照明を含めた利用料金が割安なことから一部の利用者は戻ってくると期待している。施設の充実。
- 04 経営形態：財団法人愛知県労働協会が委託管理。
- 05 (劇場形態)
- 05-1 外部写真 (無) ビデオ撮影 (有)
- 05-2 設計者 (青島設計) 施工会社 (西松建設)
- 05-3 図面 (有)
- 05-4 (設備の水準)
- 05-4-a (照明)
- a1 設備総容量 100 KVA 86 回路
- 強電パッチング方式 調光ユニット 6 kw 30 台
- プリセット 3 段
- オートトランス 6 kw 4 本

- a2 センタースポットライト 500 w 2 台
 ホリゾントライト 上: 300 w 48 灯 4 色
 下: 300 w 40 灯 4 色
 ボーダーライト 1 列 54 灯 4 色
 シーリングライト 1 列 1 kw 16 台 8 回路
 サスペンションライト 2 列 各 8 回路
 (詳細は「全国ホール名鑑」1991 年版 787 頁参照)
- 05-4-b (音響)
- b1 調整卓 日本ビクター製 18 in 12 out
 プロセニアムスピーカー 2 基 2 way アルテック製
 ステージスピーカー 1 基 2 way アルテック製
 反響板あり。カワイセミコンサートピアノ 1 台
- b2 音響効果
- 05-4-c (舞台形態) 数値不明
- c1 固定型
- c2 舞台の広さ (間口 11.5 m×奥行き 7.5 m)
- c3 舞台の高さ (6 m)
- c4 袖の広さ (47 m²)
- 05-4-d (舞台関連)
- d3 吊り物バトン (手動) (3) 本
- d6 楽屋 (有) (3 室)
- d7 花道 (有)
- 05-4-e1 客席数 (602 席: 取り外し可能オーケストラ box 36 席)
- e2 客席の形態: ワンスロープ型、階上席あり。
- 05-4-g 使用料金
- | | | |
|------|------------|---------------|
| 平日 | 8:30-21:30 | 3 万 9 千 500 円 |
| 土日祝日 | 同 | 4 万 9 千 500 円 |
- 06 (劇場の歴史)
- 06-1 建築年: 1978 年 6 月開館
 総工費: 12 億 4 千万円
- 07 (上演史関係)
- 07-1 上演史: 貸し館のため内容は把握しないが、利用の多いものは、ピアノ発表会、児童向けアニメ映画、民謡、カラオケ、諸官庁や企業等の講演、式典等である。
- 07-5 その他。情報を提供する資料: 事業概要、ホール図面、設備一覧 インタビュー記録: 桑原憲明氏、勝力英生氏

第四章 調査の概要とコメント

限られた調査の結果からいくつか気付いたことを挙げておきたい。

第1節 文化会館の建設場所について

70年代は公立文化会館が急増した時代であるが（参考資料 no. 2 参照）、今回の調査都市のうち、早い時期（1972年まで）に開館の瀬戸市民会館、刈谷市民会館、岡崎市民会館、愛知県豊田勤労福祉会館（今回調査出来なかった）、津島市民会館、旧愛知県岡崎勤労福祉会館（現岡崎市せきれいホール）、春日井市民会館は、いずれも市庁舎のすぐ近く、いわば政治の中心地か、そうでなければ市の中心の商業地（瀬戸市民会館）、旧市街の中心地（岡崎市民会館）に建てられた。市街地型と呼べよう。文化的催しより祝典、集会など公会堂としての役目が優先したと思われる。これらの多くは、今日の水準から見ると本体、設備、駐車場とも不十分になり再建の声が上がっているものが多い。しかし適した土地の確保はどこでも困難で、なかなか移転、再建には時間がかかるようである。興味深いのは岡崎市の場合である。同市では国道1号線と市役所に近い旧愛知県岡崎勤労福祉会館の移転後を小ホールの岡崎市せきれいホールとして生かし、また市民会館は旧市街中央という好立地を得て建設の後、順次小ホール、立体駐車場、リハーサル棟を加えて時代の流れに対応している。

70年代後半から、日本経済がますます成長した成果を受けて、県や市町村にも財政のゆとりが出た一方、土地が一段と高騰した。70年代に続き公立文化会館は増え続ける。各会館とも、建物本体及びホールの設備はさらに充実し、大規模になった。その代わりに、立地は広い敷地を求めて新興の住宅地や、幹線道路沿いなどになるケースが多くなった。新しいものはこの郊外型に属する。江南市民文化会館、瀬戸市文化センター、半田市福祉文化会館のように市街地に近いか、公共交通の便のよい立地が得られた幸運な例もあるが、一般には公共交通機関が不便な場合が多く、ごく近くの住人を除けば利用しにくく、稼働率が低くなる傾向がある。またこの中には愛知県岡崎勤労福祉会館、愛知県刈谷勤労福祉会館のように事実上旧愛知県勤労会館などの改築移転である場合もある。もちろん設備は旧館に比べ飛躍的によくなっている。立地の利便と施設・設備の充実のバランスをどうとるか、いつでもむつかしい課題であろう。愛知県下では、公共交通機関の偏在により、文化会館の利用にあたって特に自家用車の利用が多い。建て直しなどの場合、幸運にもたまたま現在の会館が公共交通機関の便利な立地にあるなら、建築上の工夫、建築制限の解除を探るなどあらゆる方法で現在の立地を生かすことを考えてよいのではないか。敷地にあわせ需要の多い小、中ホールを建設することも1つの方法であろう。

第2節 文化会館の複合化の傾向について

もう一つの特徴は複合施設が増加したことである。(参考資料 no. 2 参照) 県の施設である宿泊、体育施設、研修室を含む勤労福祉会館はもちろん、市の会館でも公民館、美術館、博物館、福祉施設、市役所支所などのうちいくつかを備えたものが多くなっている。また県と連携して地域文化広場として周辺の市町村の住民にも解放されているものもある。例：江南市民文化会館、瀬戸市文化センター。他の館も何らかの複合施設であることが多い。特に広域とうたわなくても、利用料金でその市町の住民と近隣の住民を区別していない館もある。この傾向は生活と文化の結びつきを求める世の中の流れを反映している。望ましい傾向と言えよう。

第3節 文化会館の会館の管理・運営問題について

(1) 文化会館の運営・維持には多額の費用がかかる。比較的新しい設備の整ったホールを持つ会館なら、年間7000万円から1億円はかかるとのことである。(これは全国平均に近い。) このことが、管理運営を次第に市当局の直営から第3セクター方式の管理協会へと移し、また自主事業を実施している場合、その予算を圧縮する動きになっている。人員は切り詰められており、正式館員は数名のところが多い。技術員は自前の館と業者に委託し、駐在してもらう場合が多い。立派なホールを造ることも大事だが、出来た後の運営・維持にこそ十分な財政の裏付けを市、町当局に望みたい。

(2) どのホールも、その都市の色々な需要を満たす必要から、多目的ホールである。サイズも大は小を兼ねるという発想が一般的のようである。従って、大ホールだけ持つところは利用者の需要の多い小ホールを希望している。近郊都市では、最近の大都市で完成もしくは建設中の、用途別の専用ホールは望めないであろうが、多目的ホールの場合でも、建設に際して利用者はもちろん、ホールで照明や音響、舞台の現場に携わる人たちや、企画に携わる人達の声を思い切って取り入れていく必要がある。ホールの本質的な性能やサイズ、形状、使い勝手が出来た後の運営、管理、維持に直接響くからである。一般に市政何周年という大きなプロジェクトでは、ホールの本質的な性能よりもとかく首長サイドの意見である魅力あるユニークな外観が優先されがちである。しかし江南市民文化会館のように十分時間をかけて市民の意見を聴き、建築もコンペを採用している会館もあれば、ホールの音響設計を特に専門家に依頼した半田市福祉文化会館もあり、次第にホール性能が全てに優先すべきの方針、傾向が愛知県でも広がりつつあるのは喜ばしい。

(3) 駐車場難はモータリゼーションの進行により、共通の悩みである。

第4節 自主事業について

今回のように文化会館が単独で行なう自主事業を見るだけでは、その都市の文化政策や文化的充実度はごく一部しか分からない。たとえば、ある会館が実施する自主事業が少ない場合でも、その市で

は社会教育課がより大規模な自主事業を実施しているかもしれないからである。市なり、町なりの公的文化政策を総合的に眺めなくてはいけない。これは今後調査を予定しているが、現時点でいくつかの点を指摘しておきたい。

（１） 自主事業の有無

市民会館の自主事業を最初から実施していない岡崎市を除き、どの市町村も文化会館の自主事業を行っている。ただ豊田市は文化会館の自主事業は少なくなってきたいて、岡崎市型に近づいているようである。この両都市は第１章で見たように名古屋圏の端に位置し、自立ないしはほぼ自立の大きな都市であり、民間の興業資本を相手にする貸し館中心の名古屋市型への移行過程にあると言えよう。もっとも両市とも別の部署（社会教育、文化振興課など）が主管する自主文化事業はむしろ盛んのようだし、鑑賞団体も存在する。

（２） 自主事業公演演目について

各文化会館とも住民各層に楽しんでもらうよう多様な公演を提供している。公文協の公演、文化庁の国立劇場巡回公演などである。劇団、子供劇団、楽団、オーケストラなどそれぞれ地元のものもあるが、全国どこでも見られる個性的でない公演も多い。またどの館でも何とかして独自性のある自主事業をやりたい、それも出来る事なら地域に密着したオリジナルな自主事業をやりたいと努力している。扶桑町中央公民館の自主事業は、同町の自主事業の主体であり、今回調査した文化会館の中で１つだけ特異のものであるが、地域に根ざした古典芸能を取り入れるなど、注目されている。また春日井市民会館は歌舞伎に力を入れている。春日井東部市民センターでは、音楽人口の多さを受け、住民と共に音楽コンクールを行い、あり来たる自主事業公演を脱しようとしているのは興味深い。歴史の古い刈谷市民会館がやはり音楽に重点をおいた自主事業を組んでいるのも注目される。春日井市を初め、いくつかの市で公的自主事業よりレベルの高い自主公演をする気概ある鑑賞団体の存在を教えられた。会館が民間の上演側、鑑賞側をコーディネートできるとよいが、既に名古屋圏でもその動きが見られるのは喜ばしい。

（３） 財政面

一つの館の事業基金は 3000 万円が一般的。また補助金は 500 万円前後。これを超えて赤字を出すと補正予算を組むことになるが、そうならないようにしなければならないという気持ちは絶えず担当者の中にあるようである。議会が補正予算を許容する度合は、都市により若干の違いはあるが、概して厳しい。議会は、それが文化的催しであり、まして興行である以上、リスクは避けがたく、欠損もやむを得ないことを承知している筈であるが、狂いの出にくい一般会計の収支とと全く同一視しがちのようである。この 500 万円という額は、従来から全国的に平均とされる額で、愛知県の都市の文化会館も例外ではない。館員は、収支バランスの制約下で、どうしたら質の高い事業を企画できるか、どうしたら自館委嘱作品の上演といった独自の自主事業を行えるかと腐心しているのである。毎年反復的に実施される企画、近隣の会館と類似の企画が見られるのは、事業収入の点で実績のある企画を織り込まざるを得ないからである。もちろん、人気がある企画はそれだけ大勢の人に喜んで貰えるのだから肯定すべき面もある。

(4) 規模

自主事業費は1000－4800万円である。収支がマイナスの場合の補助金が500万円だとすると事業費はこの規模となる。春日井市民会館、刈谷市民会館、瀬戸市文化センター、半田市福祉文化会館の事業費は特に大きい。欠損が補助金500万円を超えた場合、議会サイドの許容度が高ければ、それだけ規模の大きな事業を企画でき、質の高いものも思い切って実施できる。全国平均は1000～2000万円であるが、さらに事業規模の拡大に首長、議会の理解を求めたい。

(5) 広報活動

新聞、市及び町の広報に掲載し、チケットの販売は会館の直売が一般的。放送局との共催などの場合は、スポット広告を無料でやって貰えるようである。例：江南市民文化会館

しかし、いずれにしても広報活動は控えめに感じられる。企画が似ているせいか近隣の市町村と相互に「縄張り」を荒さない配慮をしているのが原因のようである。広報が隣の市に及ばないために、折角すぐ隣の市町村で良い公演が行なわれても出かけようがないのが実状である。自宅の近くで楽しみたい人は少なくないと思われるので、これは残念なことと言えよう。事業収入に心を痛める主催者の会館にとっても、遠方の個人向けに郵送による予約や、ラジオメディアの利用も考えられるのではないか。またもしこうした実状が当面動かせないとしたら、市民の側でも、自分の出かけられる範囲の会館に、年間の事業計画を問い合わせる努力が必要であろう。

(6) スポンサーシップについて。

公的な自主事業にも協賛という形で民間の補助を得ることは行なわれている。自主事業の資金は財政上もなかなか念出がむずかしければ、複数の企業から基金のような形で協賛金を募り、市民に還元するようなことは考えられないであろうか。財政上のメリットから、管理・運営を第3セクターに委ねるのが一般化しつつあるが、第3セクターの長所を生かし、民間資金を導入して自主事業に新風を吹きこんでもらいたいものである。

(参考資料 no.1)

・愛知県都市人口（単位：人）

地区名	1950年	1970年	1984年	1990年
愛知県	3,390,585	5,386,163	6,308,083	6,576,699
名古屋市	1,157,263	2,036,053	2,107,016	2,100,966
豊橋市	185,984	258,547	316,426	331,978
岡崎市	155,519	210,515	280,141	300,722
一宮市	134,356	219,274	255,945	261,915
瀬戸市	68,415	92,681	124,747	123,820
半田市	62,860	80,663	92,295	98,390
豊川市	59,122	85,860	106,456	110,503
春日井市	64,346	161,835	251,420	262,543
津島市	39,319	51,441	58,951	59,434
碧南市	45,491	56,933	63,525	65,455

刈谷市	50,395	87,671	109,404	117,453
豊田市	96,191	197,193	299,965	321,994
安城市	58,607	94,307	130,899	139,721
西尾市	64,356	75,193	89,955	93,905
常滑市	44,531	54,168	53,849	52,522
犬山市	35,145	50,593	68,014	69,178
蒲郡市	63,923	82,868	85,771	85,515
江南市	42,843	77,996	91,771	93,646
小牧市	36,517	79,606	111,906	123,151
尾西市	36,491	51,337	55,851	56,055
稲沢市	45,133	78,180	93,119	95,028
新城市	35,762	32,597	35,593	35,959
東海市	29,888	86,608	94,731	96,386
大府市	20,427	48,960	65,473	68,527
知多市	29,872	39,834	69,436	75,362
知立市	17,221	41,895	49,946	52,808
尾張旭市	12,040	33,634	55,668	64,153
高浜市	19,120	31,102	31,106	33,372
岩倉市	13,029	33,843	42,485	43,427
豊明市	11,646	29,776	55,601	60,131
扶桑町	10,549	10,680	27,897	29,229
佐屋町		17,267	27,837	28,406

(1950、1970 は国勢調査、1984、1990 は自治省「全国人口表」による。)

(参考資料 no.2)

・名古屋近郊都市の主要劇場（ホール）オープン年

	60年代	70年代	80年代	客席数	複合施設	自主事業
津島市民会館		1970		体育館		
愛知県津島勤労福祉会館		1977		500/300	*	
一宮市民会館		1974		1588		*
愛知県一宮勤労福祉会館			1983	607	*	
江南市民文化会館			1984	1400/427	*	*
扶桑町中央公民館			1980	650(移)		*
犬山市民文化会館			1982	1220/366	*	*
犬山福祉会館		1970		大会議室	*	
春日井市民会館	1966			1158		*
春日井市東部市民センター			1983	495	*	*
瀬戸市民会館	1959			747		
瀬戸市文化センター文化ホール			1982	1500	*	*
豊田市民文化会館		1975(小)	1981(大)	1878/508	*	*
豊田市産業文化センター			1985	240	*	

愛知県豊田勤労福祉会館	1972	590/200	*	
豊田市中央公民館	1979	704		
刈谷市民会館	1965	1216		*
愛知県刈谷勤労福祉会館		1990	512	*
愛知県岡崎勤労福祉会館		1983	800	*
岡崎市民会館	1967(大)	1987(小)	1593/300	*
岡崎市せきれいホール		(1983)	500	
岡崎市竜美丘会館		1980	1008(移・固)	*
半田市福祉文化会館		1988	1300	*
愛知県半田勤労福祉会館	1978		602	*
半田市民ホール	1966		1800(移・固)	
豊橋市公会堂	1931		754	
豊橋市民文化会館	1967		490	
愛知県豊橋勤労福祉会館	1976		1500	*
飛鳥村中央公民館		1982		
甚目寺町中央公民館		1984		
佐織町中央公民館		1985		
佐屋町中央公民館		1985	600	

エピローグ

この名古屋市周辺都市の調査で、名古屋市内からスタートし、三重県の調査を経た私たちの劇場調査も一応終了することになる。第1章、第5章は調査責任者井関が担当している。

前にも述べたように、今回調べた自主事業は、ホールによるもので、公的自主事業の一部である場合が多く、公的文化事業を把握するには、教育委員会、文化振興課などの公的文化政策を調査する必要があると痛感された。今後の調査を予定している。

また、劇団など上演する側だけでなく、鑑賞団体も今後の検討対象としたい。なぜなら、貸し館としての上演データは、各ホールとも大きなジャンルで分類したものしかなく、あるホールでパフォーミング・アーツを提供している主体や、詳細な内容は十分捉えられないからである。

なお、やや次元の違う話題になるが、豊かになったといわれ、余暇が増える現状においても、パフォーミング・アーツに足を運ぶことのできる人は、極めて限られている。中年、老年、青少年としての働く私たち、かつて働いた、あるいはこれから働く私たちにとって、そうできる経済的余裕、時間的余裕、さらには気分的余裕がどれだけあるであろう。社会が真のゆとりを許すようにならなければ、「文化」の恩恵にあずかることは難しい。また、成人として楽しめる素地は、幼少時にパフォーミング・アーツに接したり、芸術・芸能を習得したことにより作られるのだから、そこでも色々な余裕が必要になる。政治、経済、教育の変化、企業中心の社会の変化が無くてはそうした余裕はかなわない。市民一人一人がそれを求め続けなければならないであろう。もっとも、鑑賞ではなく、状況を切

り開こうとする劇団など上演側にとっては今はそう悪い状況でないかもしれない。

最後にこの調査でご協力頂いた各会館の管理・運営・自主事業の担当者のかたがたに、お礼を申し上げます。どの方も文化事業を公的に行なうことに若干のためらいを持ちつつ、できるだけその市独自性を打ち出したいと多くの制約をくぐり、熱心に研究・努力されていた。今後の一層のご健闘を祈ります。また市、町上層部の地方文化振興への理解、第一線で苦心されている方たちへの理解がもっと深まることを期待したい。

なお私たちの研究グループでは、名古屋市の劇場調査の事例研究として、七つ寺共同スタジオを拠点とする演劇運動研究が行われている。またうりんこ劇場についても同じ研究が進行していることを付記しておきたい。(T. I) (「はじめに」参照。)

参考文献

- ☆ 青野寿芳郎・尾留川正平責任編集『日本地誌 12、愛知県、岐阜県』、1969、二宮書店
- ☆ 中田実・谷口茂編著『名古屋第2の世紀への出発』、1990年、東信堂
- ☆ 『昭和60年大都市交通センサス 中京圏 総集編』、1987、運輸省(財)運輸経済研究センター
- ☆ 『地方自治年鑑 1991』、1991、第一法規
- ☆ 『全国ホール名鑑 平成3年版』、1991、全国ホール協会
- ☆ 『全国公立文化施設名簿』(昭和63年度版)、1988、全国公立文化施設協議会
- ☆ 『昭和国勢調査総覧第1巻』、1991、東洋経済新報社
- ☆ 自治省『全国市町村要覧平成2年版』、1990、第一法規
- ☆ 森啓編『市民文化と文化行政』、1990、学陽書房
- ☆ 森啓・松下圭一編『文化行政』、1981、学陽書房
- ☆ 佐藤一子『文化協同の時代』、1989、青木書店